

平成 26 年度

香川県男女共同参画社会に関する意識調査

概 要 版

平成 27 年 3 月



香 川 県

<目 次>

1. 調査の概要	1
1.1 調査目的	1
1.2 調査項目	1
1.3 調査設計	1
1.4 回収状況	1
1.5 報告書の見方	1
2. 調査回答者の属性	2
2.1 性別	2
2.2 年齢	2
2.3 結婚の有無	3
2.4 職業	3
2.5 家族構成（子どもについて）	5
2.6 介護の必要性	6
2.7 世帯構成	6
3. 調査の集計結果	7
3.1 家庭生活などについて	7
3.2 男女の平等と役割について	14
3.3 女性の社会進出について	17
3.4 就労について	20
3.5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	23
3.6 男女間における暴力について	26
3.7 防災について	37
3.8 男女共同参画社会の形成について	39

1. 調査の概要

1.1 調査目的

男女共同参画社会に関する県民の意識と生活実態を把握し、「男女共同参画計画」策定の基礎データとともに、今後の男女共同参画施策推進の参考資料とする。

1.2 調査項目

- (1) 家庭生活などについて
- (2) 男女の平等と役割について
- (3) 女性の社会進出について
- (4) 就労について
- (5) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
- (6) 男女間における暴力について
- (7) 防災について
- (8) 男女共同参画社会の形成について

1.3 調査設計

- (1) 調査地域 香川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の 20 歳以上の男女
- (3) 標本数 3, 000
- (4) 抽出方法 選挙人名簿に基づく層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査期間 平成 26 年 11 月 10 日(月)～平成 26 年 12 月 10 日(水)

1.4 回収状況

- (1) 標本数 3, 000
- (2) 有効回収数 958 票（有効回収率：31.9%）

種別	票数
有効回収	958
無効	1
合計	959

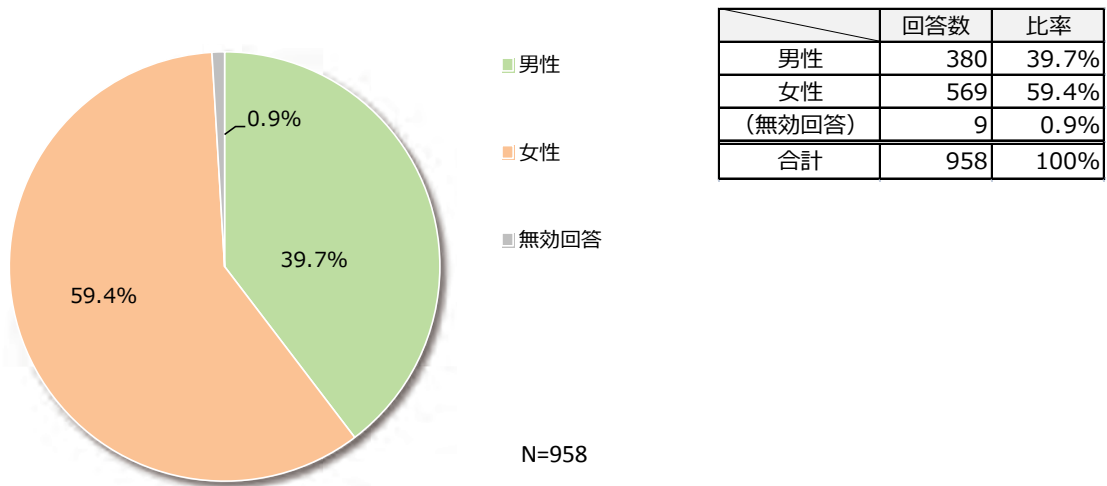
1.5 報告書の見方

- (1) 集計は、小数点第 2 位を四捨五入してある。したがって、比率の数値の合計が 100.0% ちょうどにならない場合がある。
- (2) 回答の比率は、その設問の回答者数（N）を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は全ての比率を合計すると 100.0% を超えることがある。

2. 調査回答者の属性

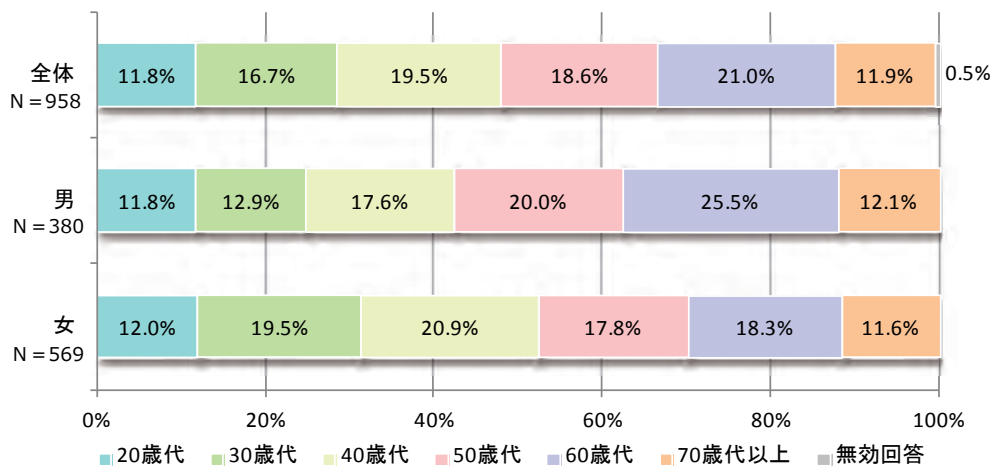
2.1 性別

回答者の性別は「男性」は 39.7%、「女性」が 59.4%となっている。



2.2 年齢

回答者の年齢構成は「20 歳代」が 11.8%、「30 歳代」は 16.7%、「40 歳代」は 19.5%、「50 歳代」は 18.6%、「60 歳代」は 21.0%、「70 歳代以上」が 11.9%となっている。

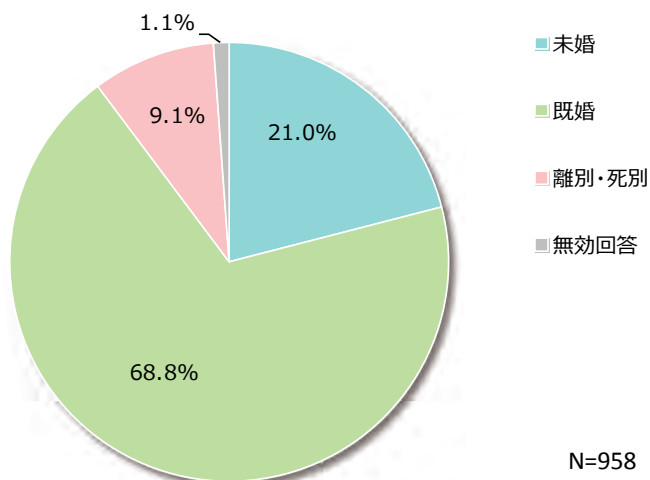


	回答数	比率
20歳代	113	11.8%
30歳代	160	16.7%
40歳代	187	19.5%
50歳代	178	18.6%
60歳代	201	21.0%
70歳代以上	114	11.9%
(無効回答)	5	0.5%
合計	958	100%

	男性		女性	
	回答数	比率	回答数	比率
20歳代	45	11.8%	68	12.0%
30歳代	49	12.9%	111	19.5%
40歳代	67	17.6%	119	20.9%
50歳代	76	20.0%	101	17.8%
60歳代	97	25.5%	104	18.3%
70歳代以上	46	12.1%	66	11.6%
(無効回答)	0	0.0%	0	0.0%
合計	380	100%	569	100%

2.3 結婚の有無

回答者の結婚の有無は、「未婚」21.0%、「既婚（事実婚を含む）」68.8%、「離別・死別」9.1%となっている。

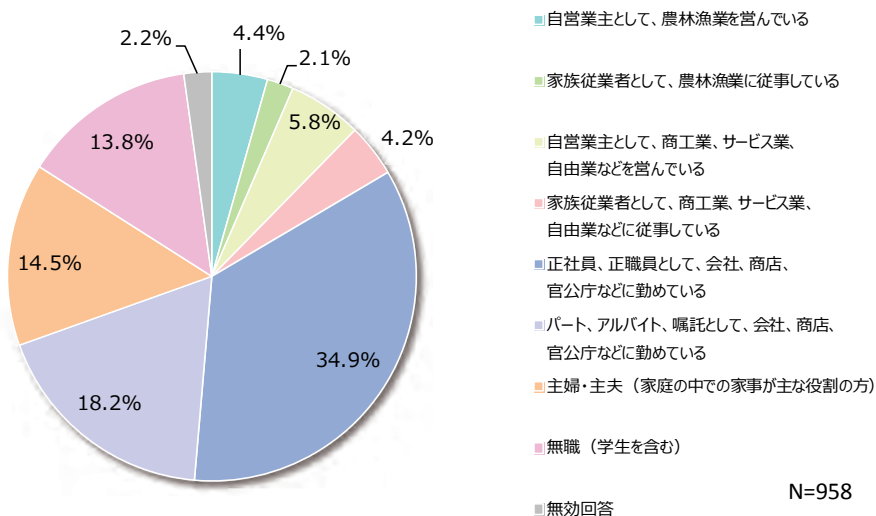


	回答数	比率
未婚	201	21.0%
既婚 (事実婚を含む)	659	68.8%
離別・死別	87	9.1%
(無効回答)	11	1.1%
合計	958	100%

2.4 職業

(1) 回答者の職業

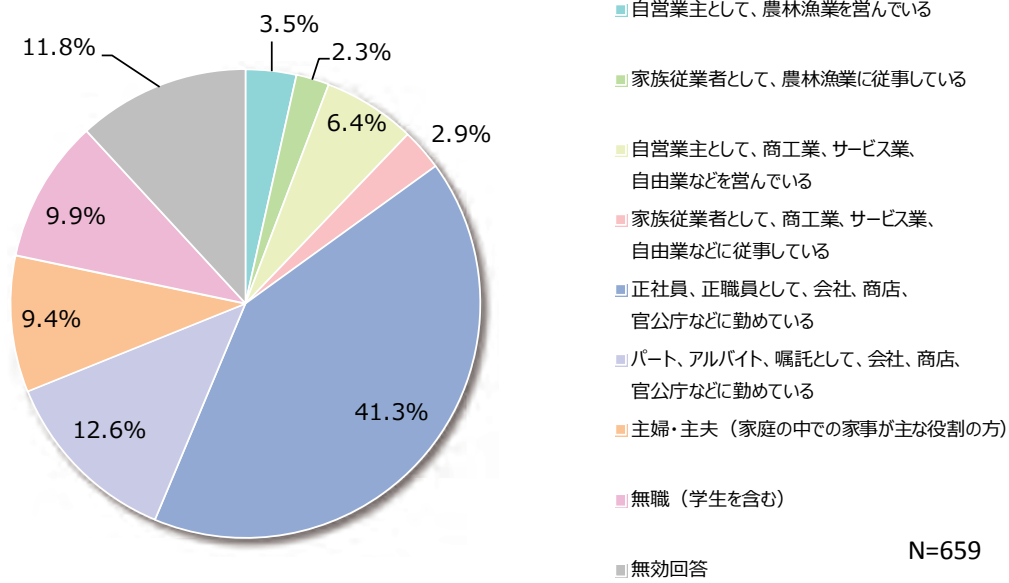
回答者の職業は、「農業・林業・漁業」は 6.5%、「商工業・サービス業・自由業」は 10.0%、「会社・商店・官公庁(正社員等)」は 34.9%、「会社・商店・官公庁(パート・アルバイト・嘱託)」は 18.2%、「主婦・主夫」は 14.5%、「無職（学生を含む）」が 13.8%となっている。



	回答数	比率
自営業主として、農林漁業を営んでいる	42	4.4%
家族従業者として、農林漁業に従事している	20	2.1%
自営業主として、商工業、サービス業、自由業などを営んでいる	56	5.8%
家族従業者として、商工業、サービス業、自由業などに従事している	40	4.2%
正社員、正職員として、会社、商店、官公庁などに勤めている	334	34.9%
パート、アルバイト、嘱託として、会社、商店、官公庁などに勤めている	174	18.2%
主婦・主夫 (家庭の中での家事が主な役割の方)	139	14.5%
無職 (学生を含む)	132	13.8%
(無効回答)	21	2.2%
合計	958	100%

(2) 配偶者の職業（既婚者のみ）

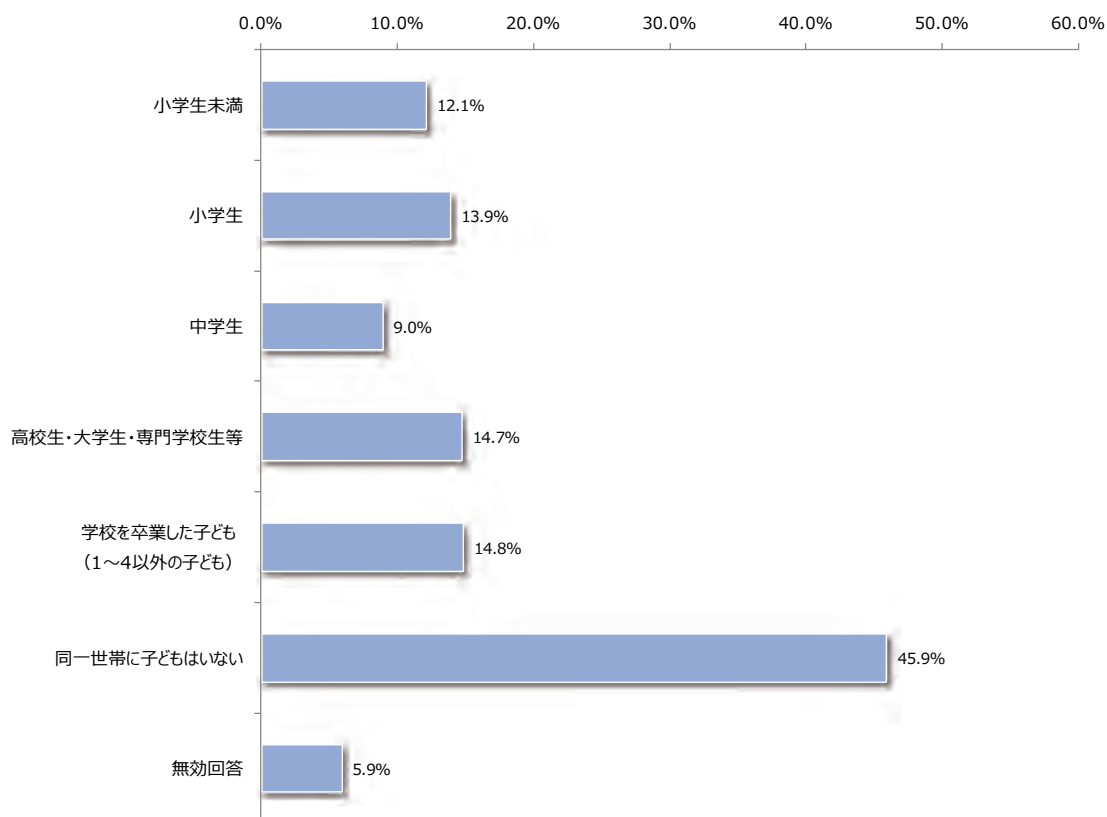
配偶者の職業は、「農業・林業・漁業」は 5.8%、「商工業・サービス業・自由業」は 9.3%、「会社・商店・官公庁(正社員等)」は 41.3%、「会社・商店・官公庁(パート・アルバイト・嘱託)」は 12.6%、「主婦・主夫」は 9.4%、「無職（学生を含む）」が 9.9%となっている。



	回答数	比率
自営業主として、農林漁業を営んでいる	23	3.5%
家族従業者として、農林漁業に従事している	15	2.3%
自営業主として、商工業、サービス業、自由業などを営んでいる	42	6.4%
家族従業者として、商工業、サービス業、自由業などに従事している	19	2.9%
正社員、正職員として、会社、商店、官公庁などに勤めている	272	41.3%
パート、アルバイト、嘱託として、会社、商店、官公庁などに勤めている	83	12.6%
主婦・主夫（家庭の中での家事が主な役割の方）	62	9.4%
無職（学生を含む）	65	9.9%
（無効回答）	78	11.8%
合計	659	100%

2.5 家族構成（子どもについて）

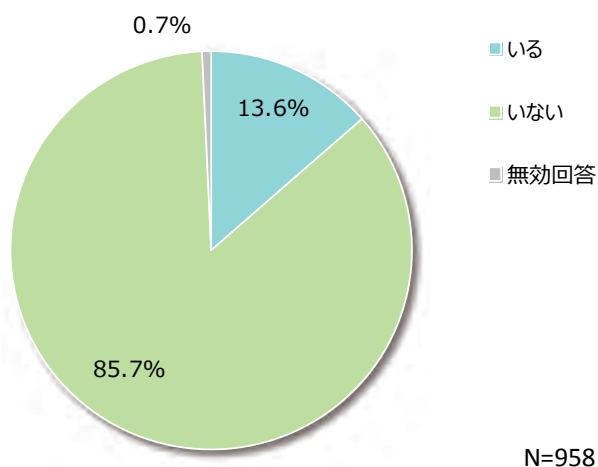
家族構成においては、「同一世帯に子どもはいない」割合が45.9%と最も多い。



	回答数	比率
小学生未満	116	12.1%
小学生	133	13.9%
中学生	86	9.0%
高校生・大学生・専門学校生等	141	14.7%
学校は卒業した子ども	142	14.8%
同一世帯に子どもはいない	440	45.9%
(無効回答)	57	5.9%
合計	1,115	—

2.6 介護の必要性

日常的に介護を必要とする方がいる世帯は 13.6%、必要とする方がいない世帯は 85.7%となっている。

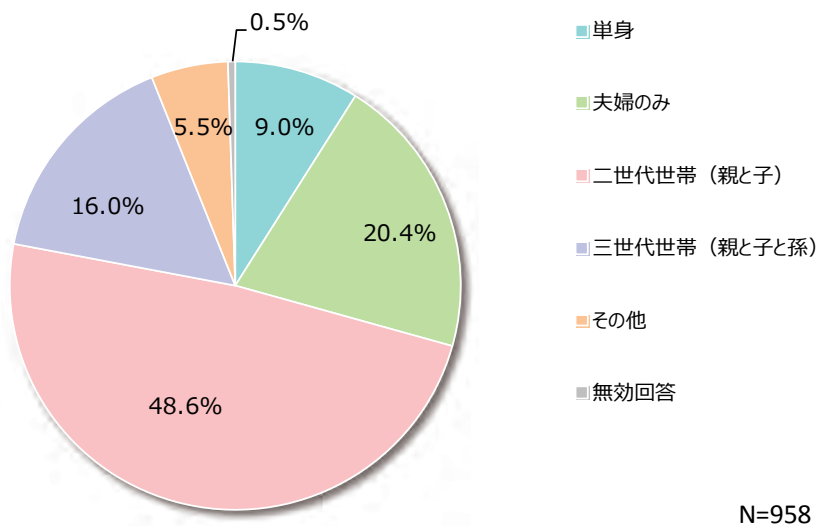


	回答数	比率
いる	130	13.6%
いない	821	85.7%
(無効回答)	7	0.7%
合計	958	100%

2.7 世帯構成

世帯構成としては、「二世世代世帯（親と子）」が 48.6%、次いで「夫婦のみ」が 20.4%となっている。

単身者の割合は 10%未満となっている。



	回答数	比率
単身	86	9.0%
夫婦のみ	195	20.4%
二世世代世帯（親と子）」	466	48.6%
三世世代世帯（親と子と孫）」	153	16.0%
その他	53	5.5%
(無効回答)	5	0.5%
合計	958	100%

3. 調査の集計結果

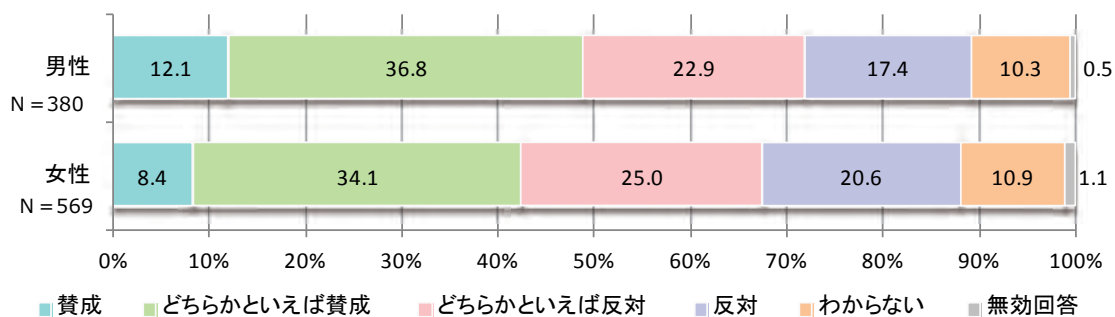
3.1 家庭生活などについて

1) 家庭生活と家族観（男女の役割）

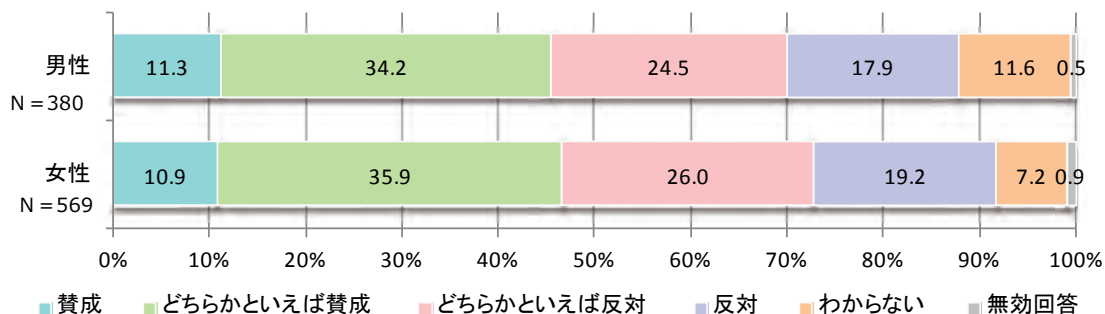
問 8 家庭生活と家族観（男女の役割）について、あなたはどのようにお考えですか。
【〇はそれぞれ1つずつ】

「①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、女性では反対が賛成を上回り、男性では賛成が反対を上回った。

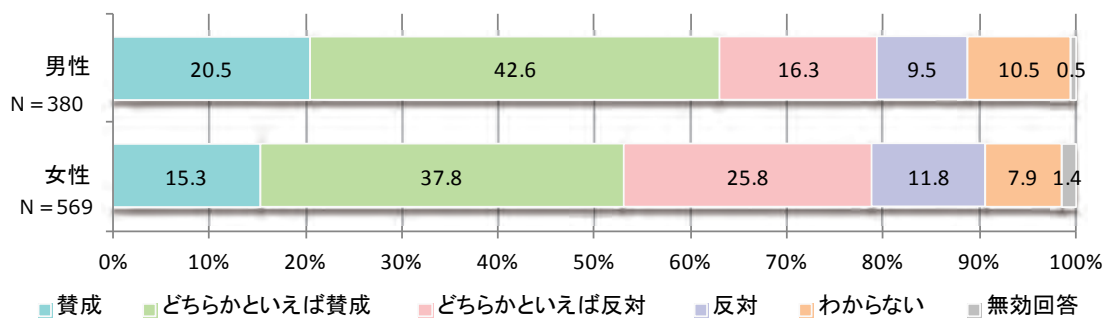
①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



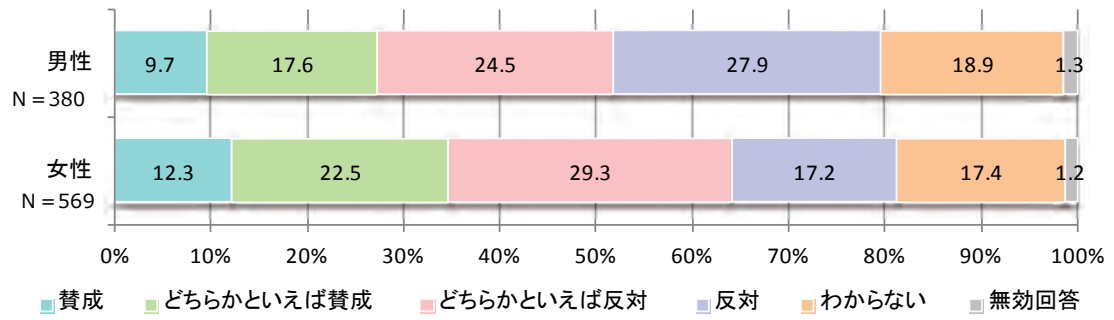
②女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい



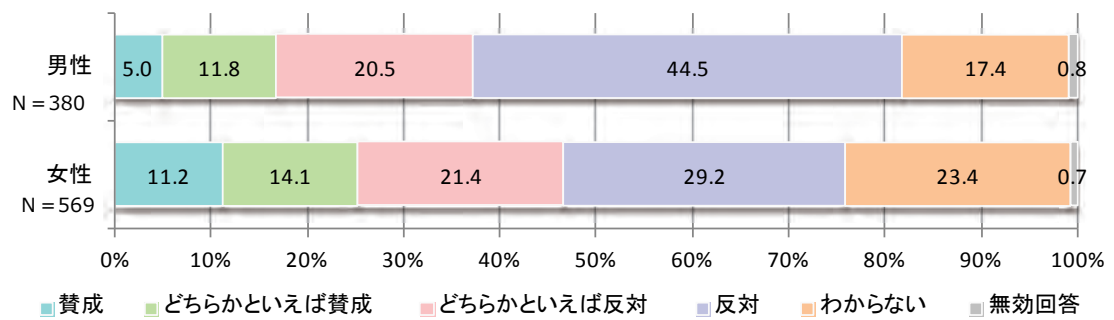
③女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児・介護はきちんとすべきである



④結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい



⑤夫婦が別々の姓を選択できるようにした方がよい



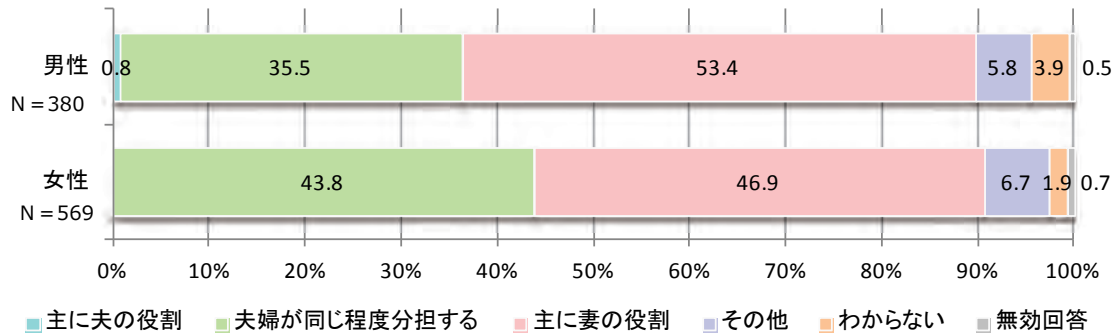
2) 家庭での夫と妻の役割分担の希望について

問9 家庭での夫と妻の役割分担について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。

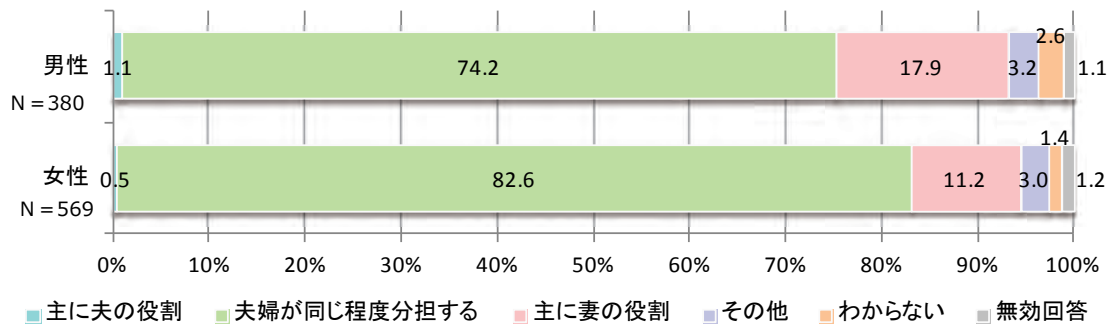
【〇はそれぞれ1つずつ】

「①炊事、洗濯、掃除などの家事」、「⑥家計の管理」は妻、「⑤収入を得ること」は夫、「②子どもの世話、しつけや教育」「③親などの介護」、「④地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動」、「⑦高額な商品や土地、家屋購入の決定」は夫婦で分担を希望するという回答が多くなっている。

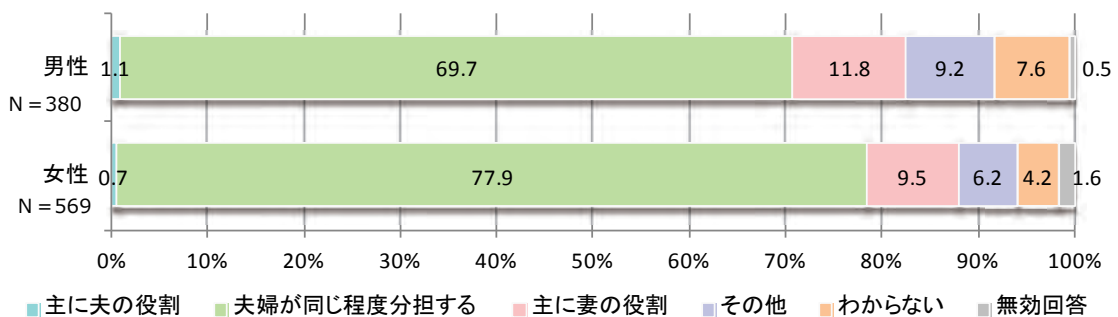
①炊事、洗濯、掃除などの家事



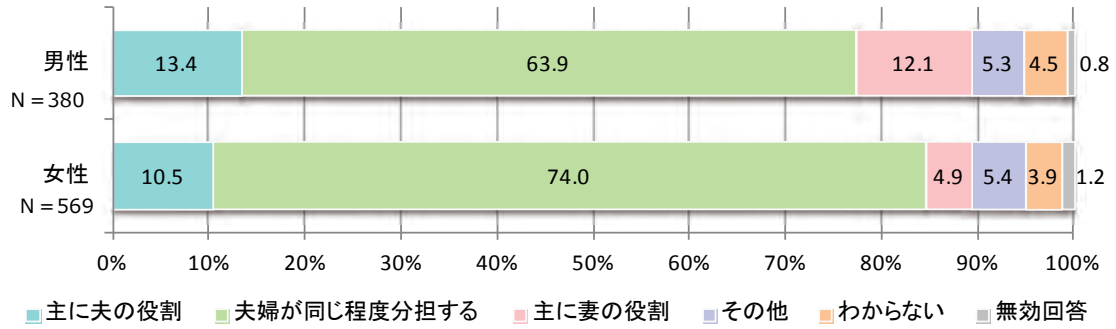
②子どもの世話、しつけや教育



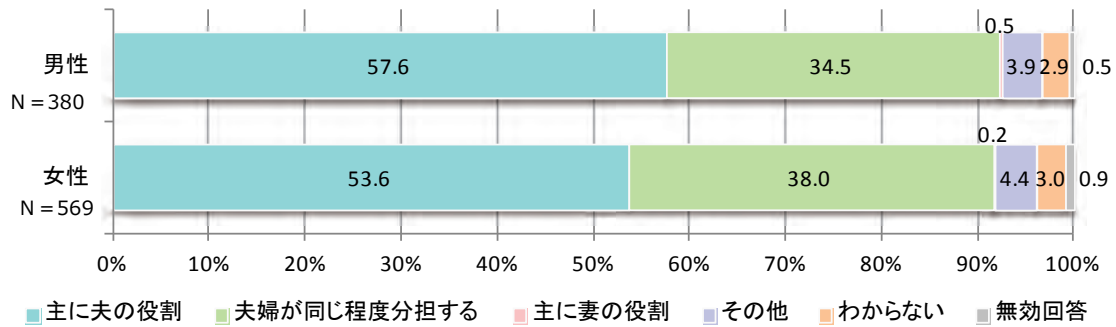
③親などの介護



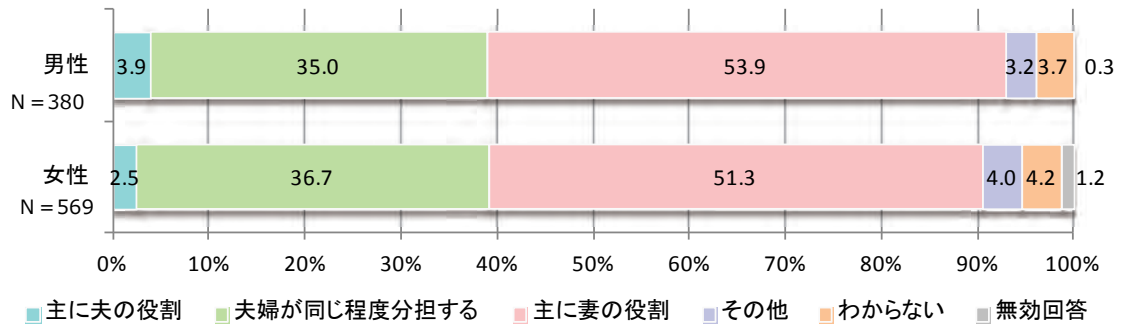
④地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動



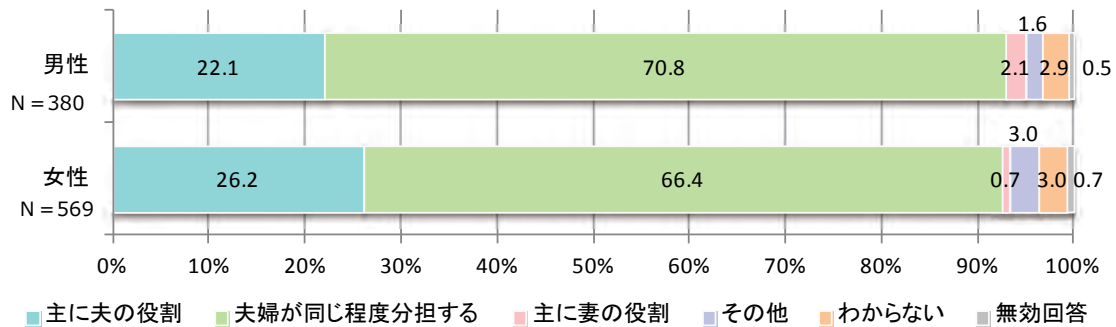
⑤収入を得ること



⑥家計の管理



⑦高額な商品や土地、家屋の購入の決定



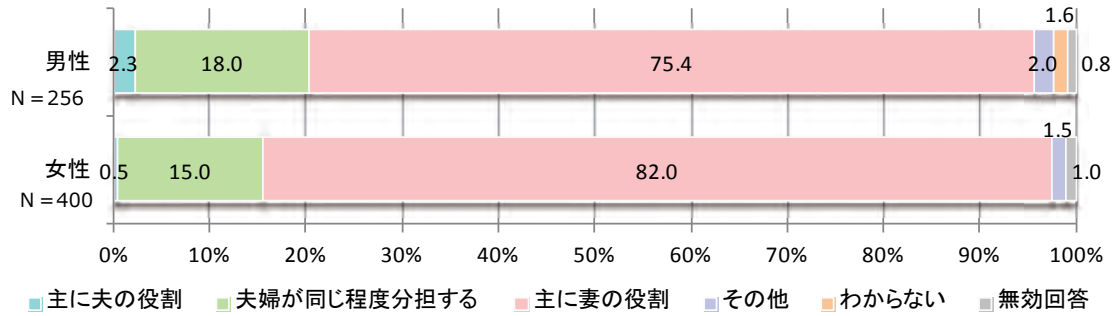
3) 家庭での夫と妻の役割分担の現状について

※現在、ご結婚されている方のみお答えください。その他の方は問 11 へ進んでください。

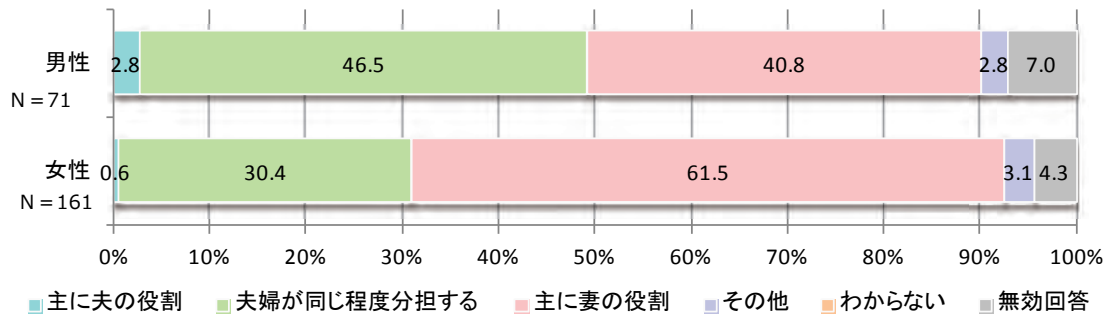
問 10 あなたの家庭での夫と妻の役割分担について、現状に最も近いものはどれですか。
【〇はそれぞれ1つずつ】

「①炊事、洗濯、掃除などの家事」、「⑥家計の管理」は妻、「⑤収入を得ること」は夫、「②子どもの世話、しつけや教育」、「③親などの介護」、「④地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動」は、女性では「主に妻の役割」が多いのに対し、男性では「夫婦が同じ程度分担する」が多くなっている。

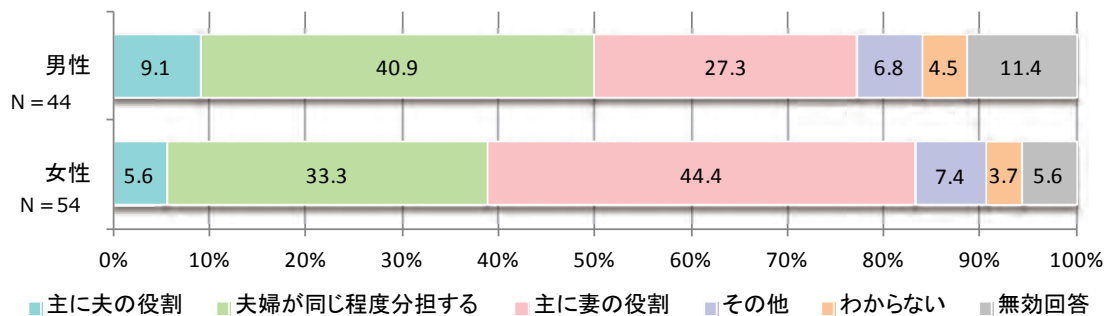
①炊事、洗濯、掃除などの家事



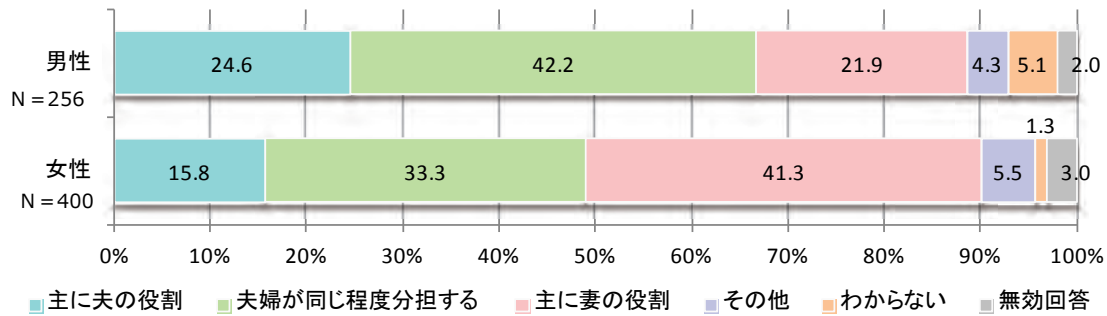
②子どもの世話、しつけや教育



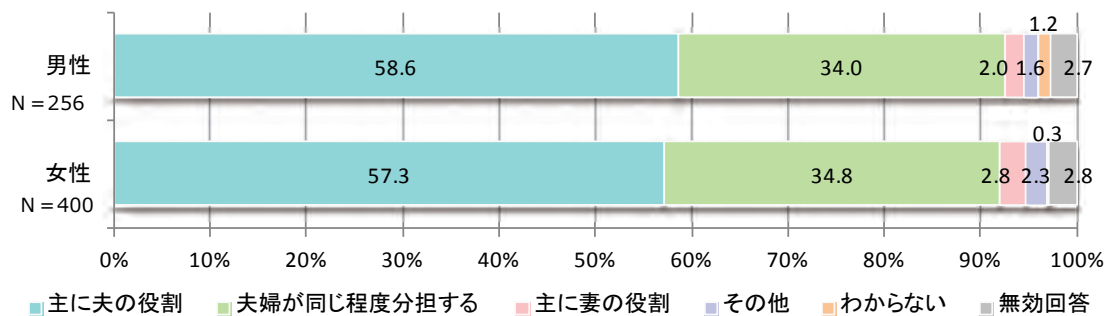
③親などの介護



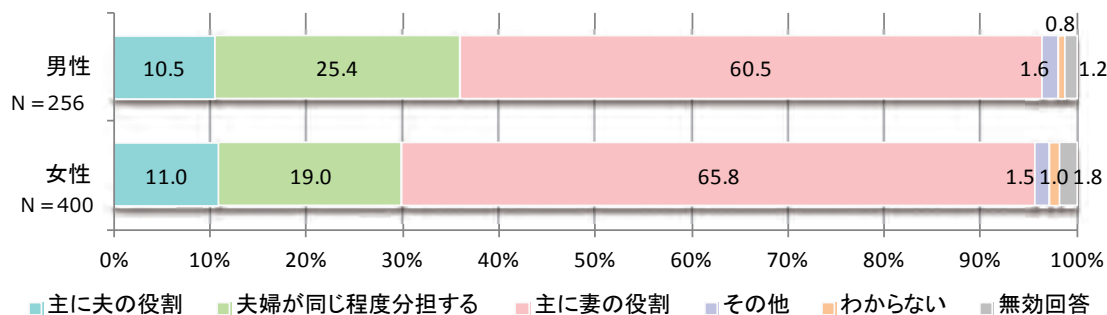
④地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動



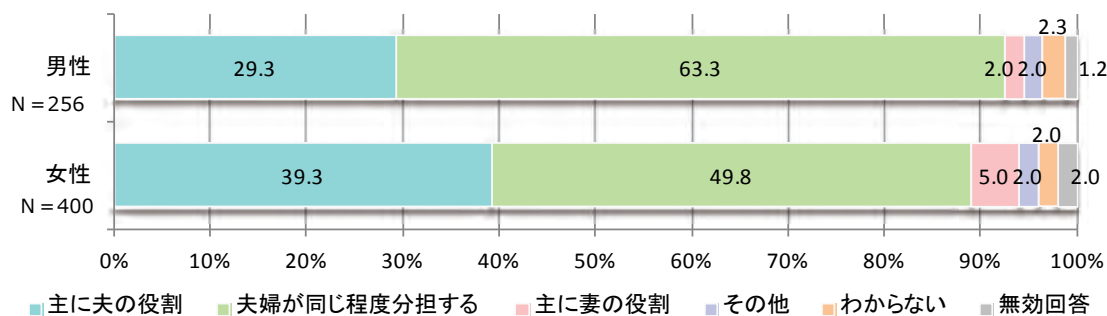
⑤収入を得ること



⑥家計の管理



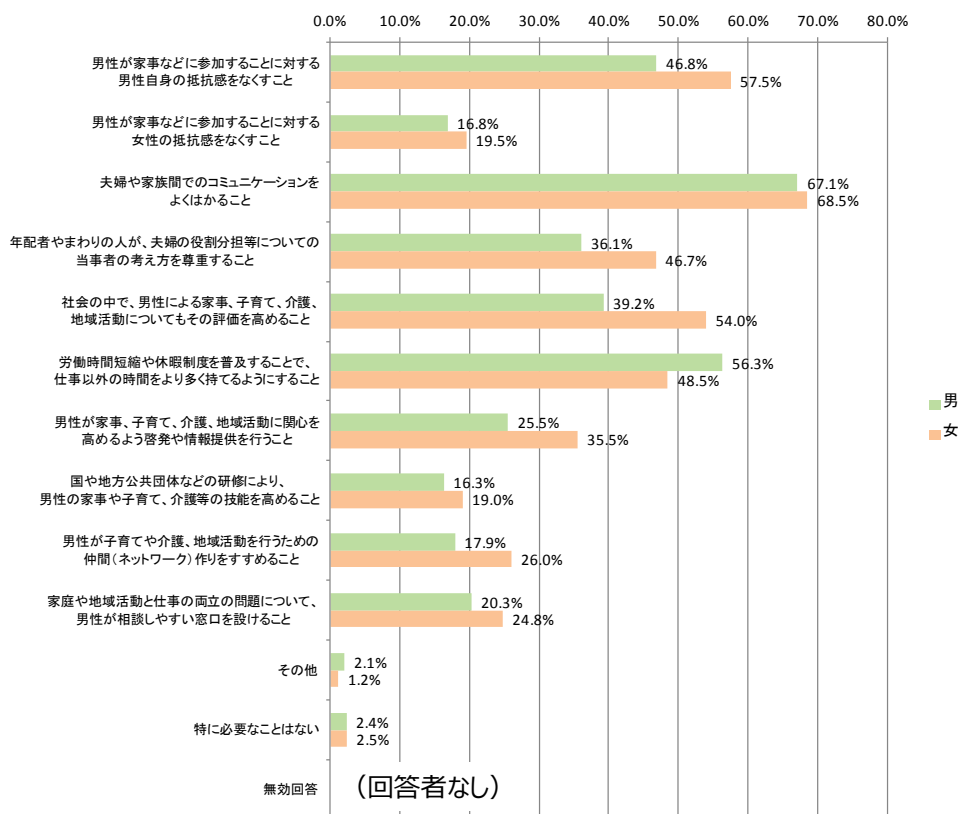
⑦高額な商品や土地、家屋の購入の決定



4) 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

問 11 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。
【○はいくつでも】

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についてもその評価を高めること」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」が多くなっている。



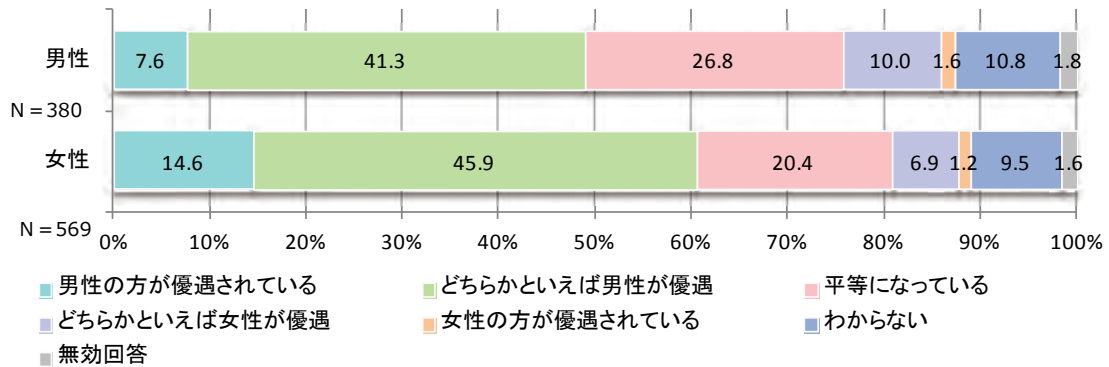
3.2 男女の平等と役割について

1) 各分野での男女の地位について

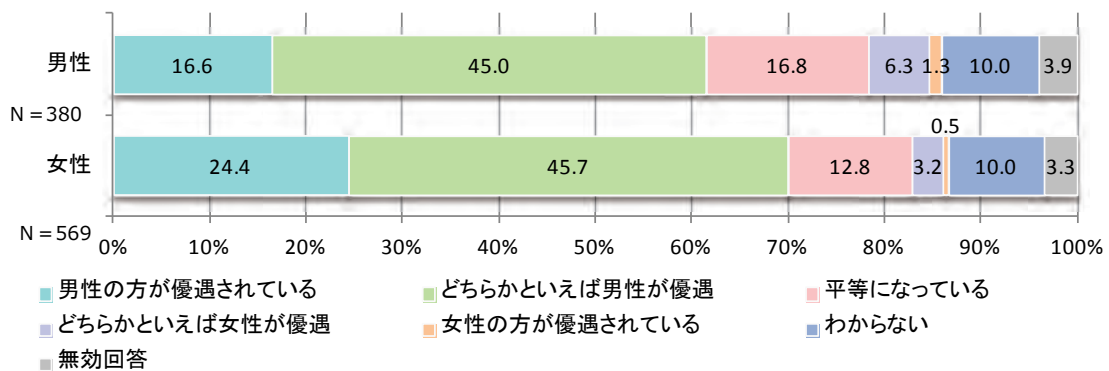
問 12 あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
【〇はそれぞれ1つずつ】

「学校教育の場」以外において、男性優遇と感じている人が多くなっている。

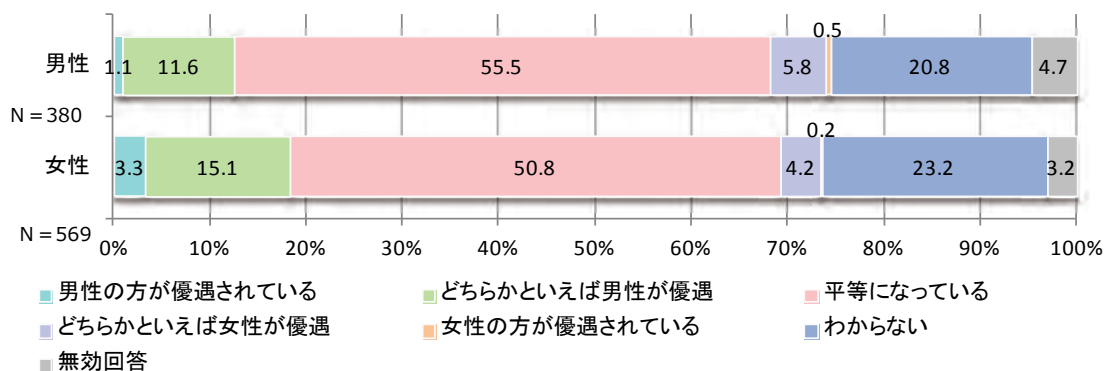
①家庭生活



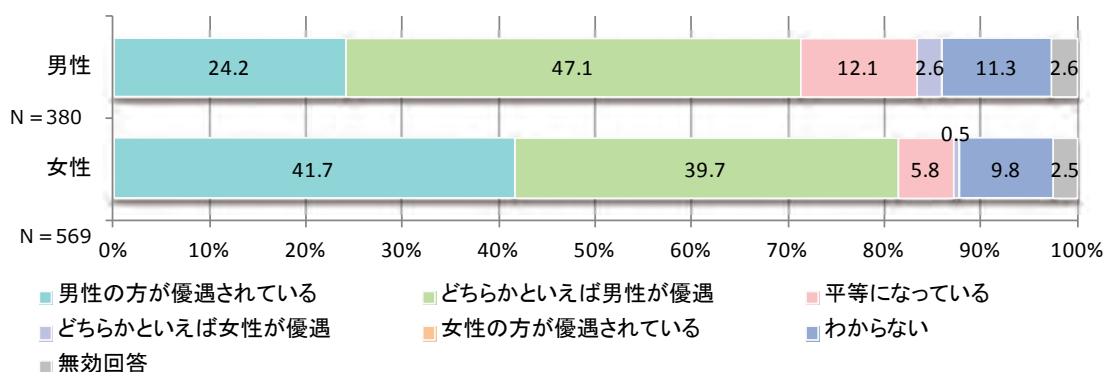
②職場



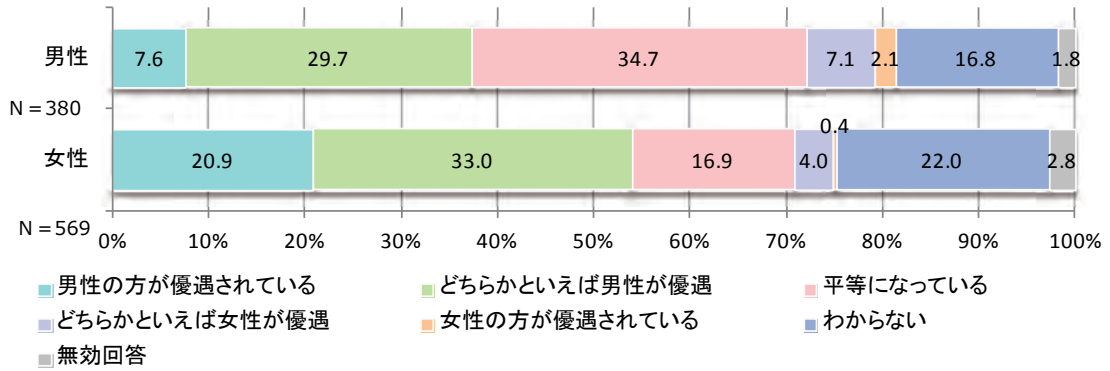
③学校教育の場



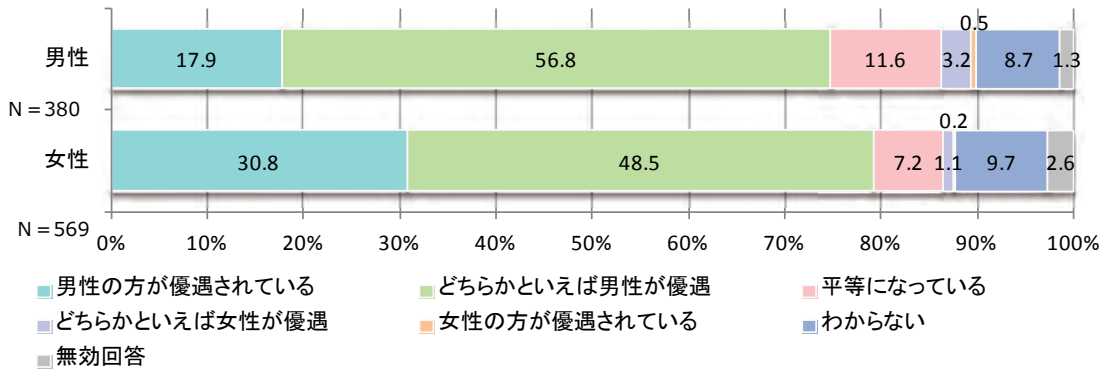
④政治の場



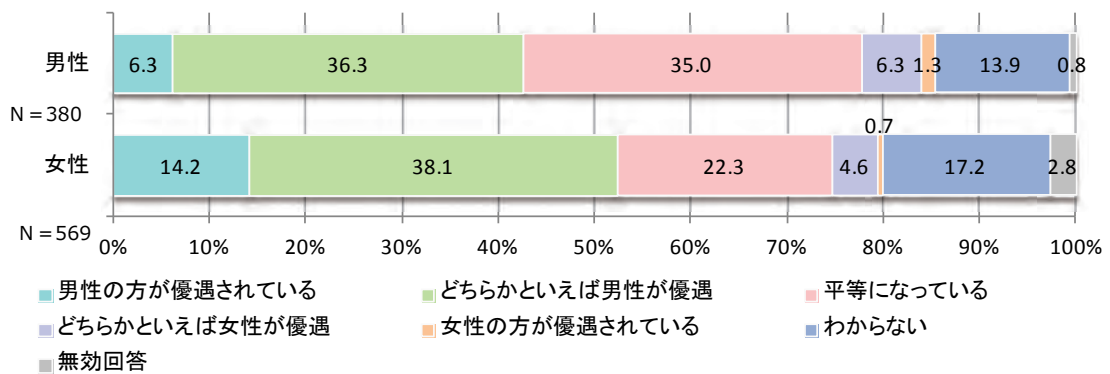
⑤法律や制度の上



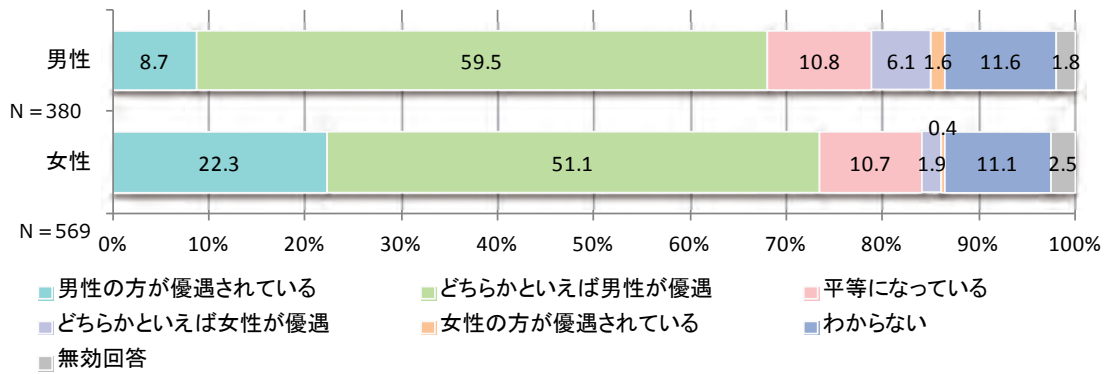
⑥社会通念・慣習・しきたりなど



⑦地域活動の場



⑧社会全体

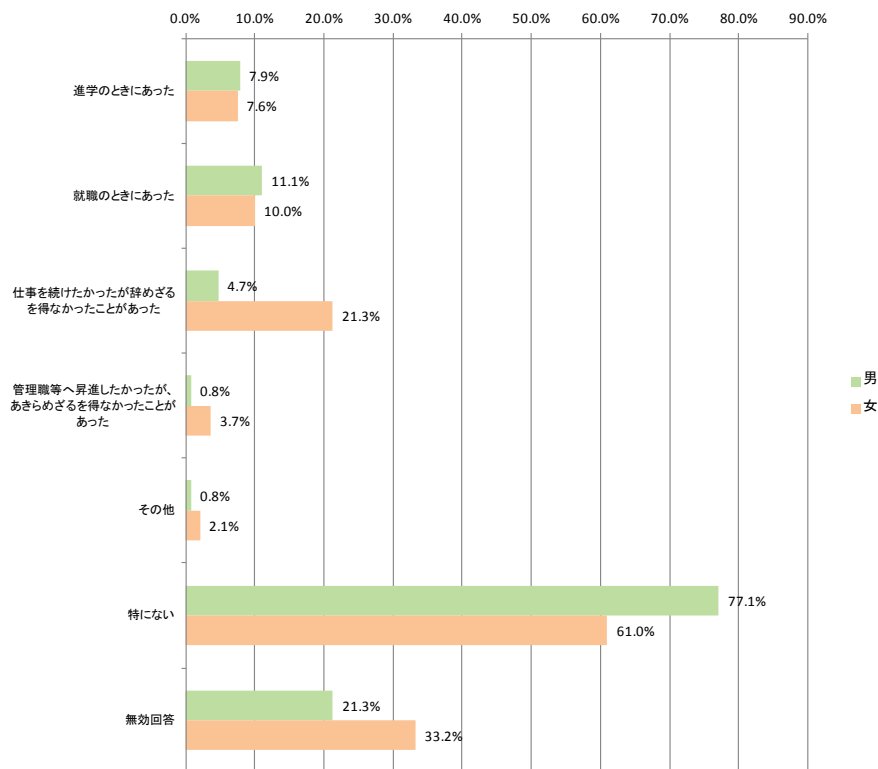


2) 男女間の固定的な先入観を理由に自分の希望と違う選択をせざるを得なかった経験について

問 13 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」、「男子生徒は理系、女子生徒は文系を選ぶべき」といった、男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をせざるを得なかったことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

【○はいくつでも】

女性で「仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった」との回答が多くなっている。

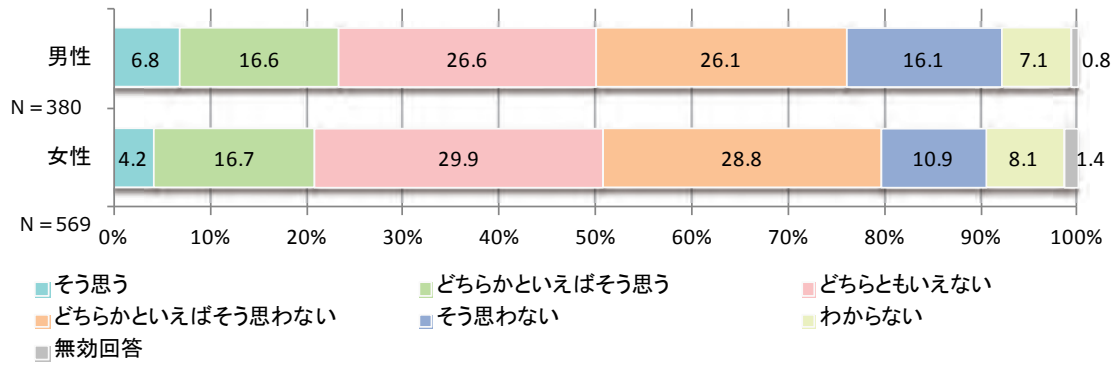


3.3 女性の社会進出について

1) 社会における女性の能力の発揮について

問 14 あなたは、社会において、女性の能力は十分発揮されていると思いますか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。 【○は1つ】

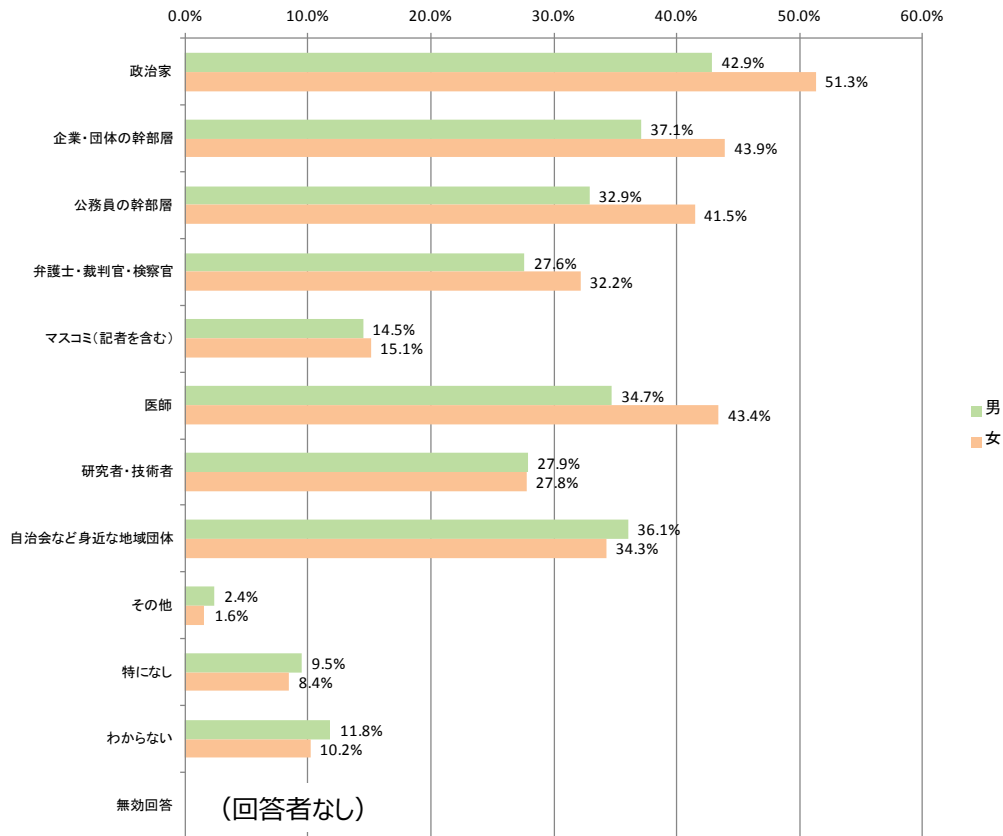
女性の能力は十分発揮されていないという回答が、発揮されているという回答を上回っている。
性別にみると、男女の回答においても大きな違いはなく、男女とも否定意見が肯定意見を上回った。



2) 女性の参画が必要と思われる分野

問 15 あなたは、今後、女性の参画が必要と思われる分野は、どのような分野だと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。【○はいくつでも】

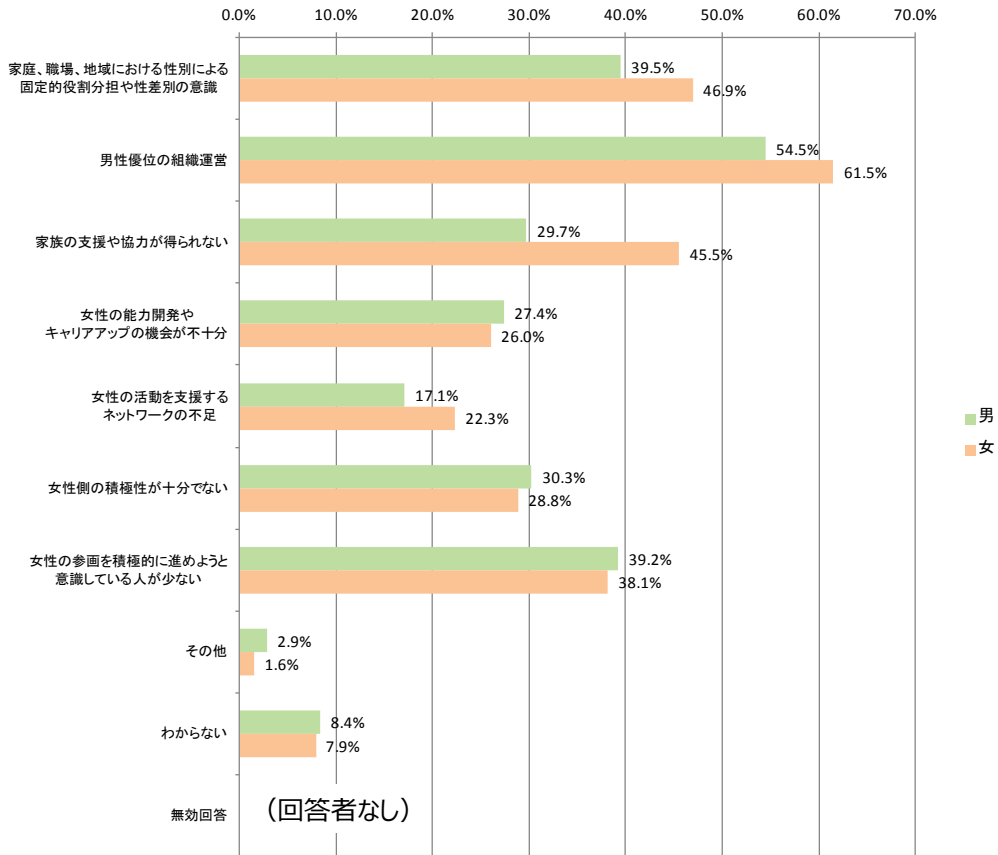
女性の参画が必要な分野は、「政治家」、「企業・団体の幹部層」、「医師」が多くなっている。



3) 企業や地域社会、また政治、行政において企画立案、方針決定の過程に女性が少ない理由

問 16 あなたは、企業や地域社会、また政治や行政において、企画立案や方針決定の過程に指導的立場の女性が少ない理由は何だと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。【○はいくつでも】

男女とも「男性優位の組織運営」が最も多くなっている。

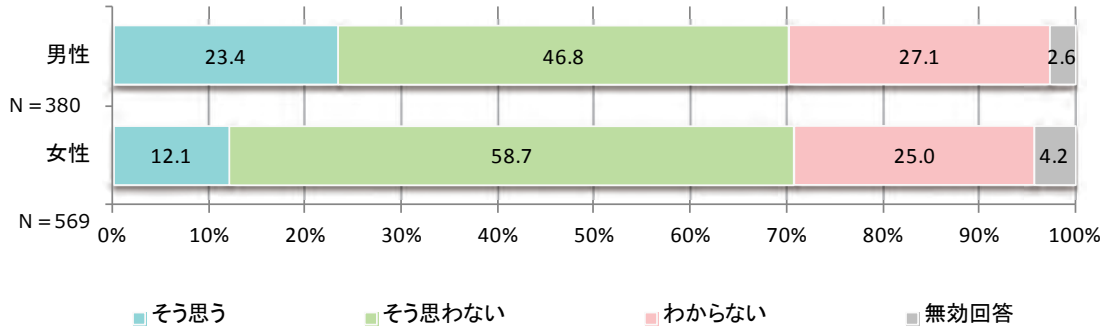


3.4 就労について

1) 10年後、現在より難しい仕事を行っていると思うかどうかについて

問 17 あなたは、自分が10年後、現在より高い職責にあったり、高い技術を身につけることなどにより、難しい仕事を行っていると思いますか。
 あてはまる番号1つに○をつけてください。【○は1つ】

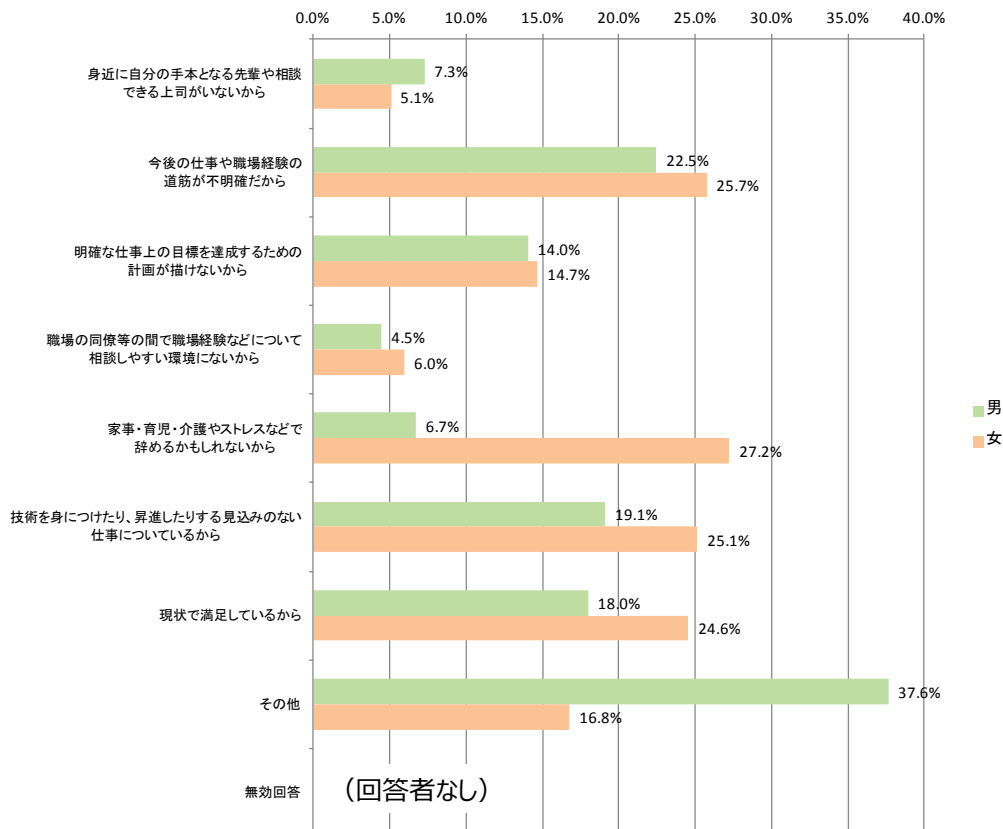
現在より難しい仕事を行っていると考える女性は男性の半数程度となっている。



2) 10年後、現在より難しい仕事を行っていると思わない理由

問 18 問17で「2 そう思わない」と答えた方にお聞きします。それはなぜですか。あてはまる番号に○をつけてください。
 【○はいくつでも】

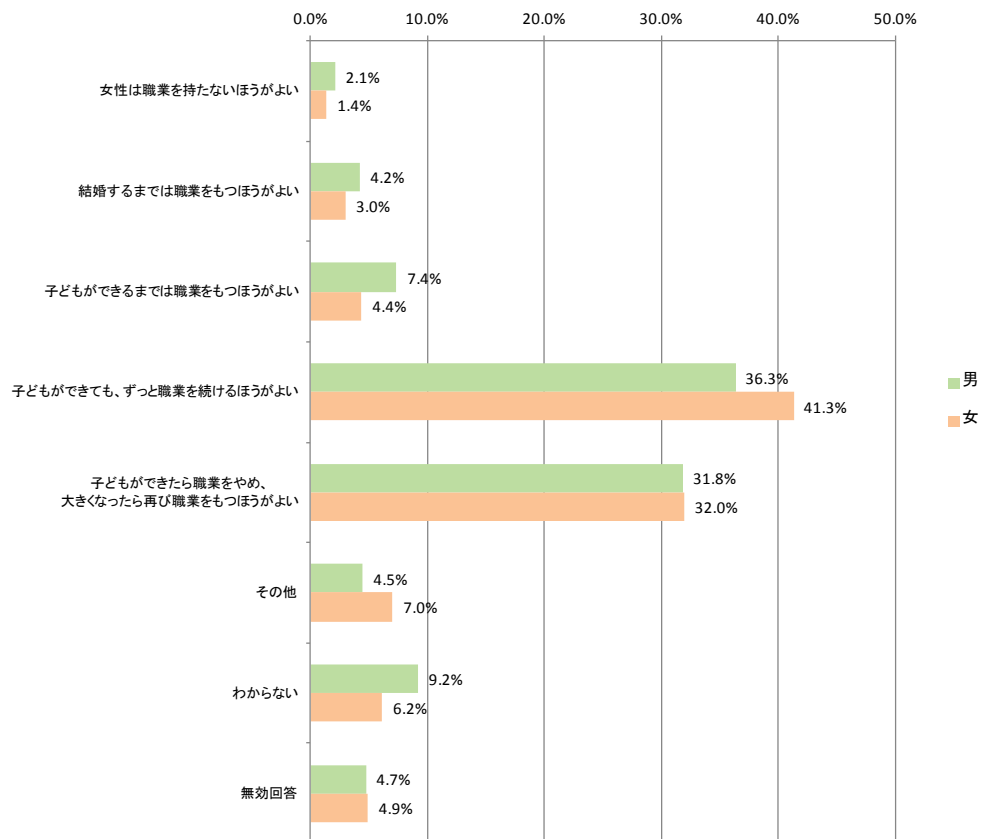
女性では「家事・育児・介護やストレスなどで辞めるかもしれないから」が最も多く、男性では「今後の仕事や職場経験の道筋が不明確だから」が多くなっている。



3) 女性が職業を持つことについて

問 19 あなたは、一般的に女性が職業を持つことについて、どう思いますか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。【○は1つ】

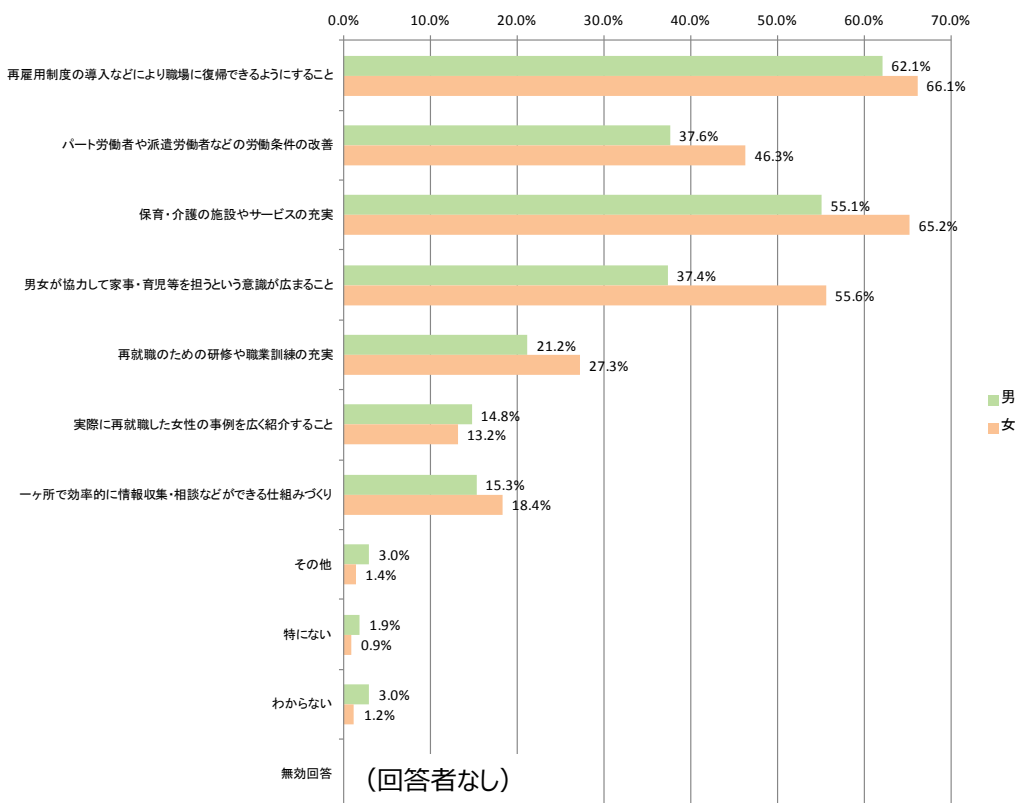
男女とも「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が最も多く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」と回答している。



4) 女性が再就職するために必要なこと

問 20 問 19 で「2」～「7」（「1 女性は職業を持たない方がよい」以外）と答えた方にお聞きします。出産・育児・介護などのため仕事をいったん辞めてから再就職を希望する女性が、再就職しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。

男女とも「再雇用制度の導入などにより職場に復帰できるようにすること」、「保育・介護の施設やサービスの充実」が多くなっている。



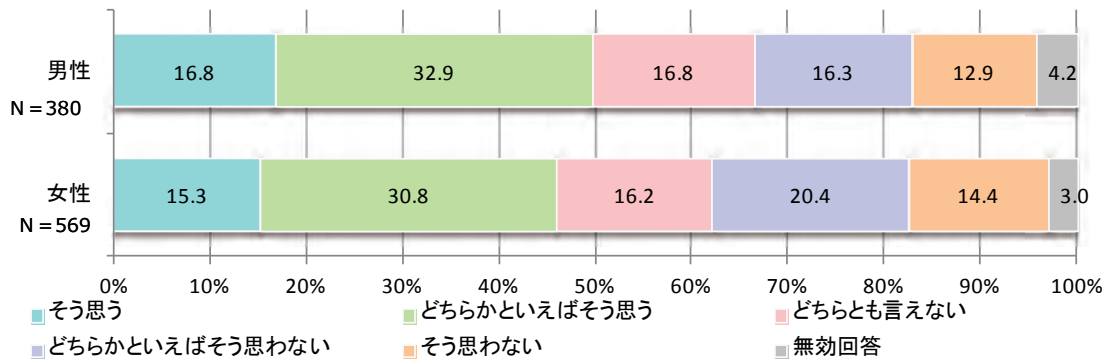
3.5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

1) 希望する時間の使い方ができていると思うかどうかについて

問 21 あなたは、仕事や家庭、地域・社会活動、趣味・娯楽など、自分が希望する時間の使い方ができていると思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

【○は1つ】

男女とも約半数が「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答しているものの、約3割は自分が希望する時間の使い方ができていないと回答している。

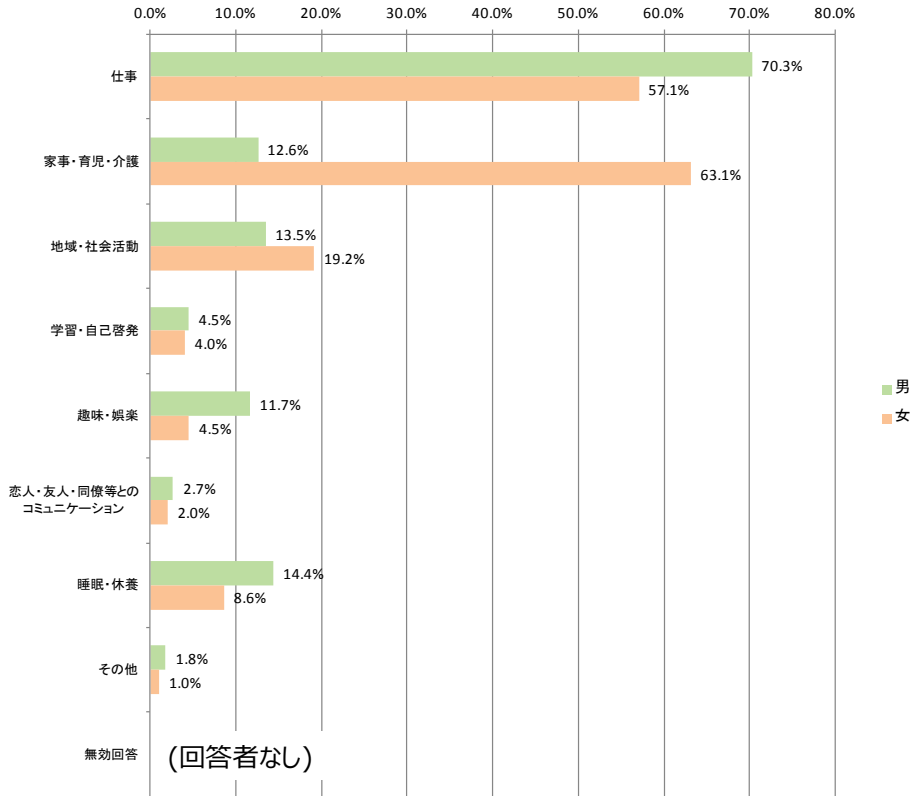


2) 「時間を取りすぎていると思う活動」と「時間が取れていないと思う活動」

(1) 「時間を取りすぎていると思う活動」

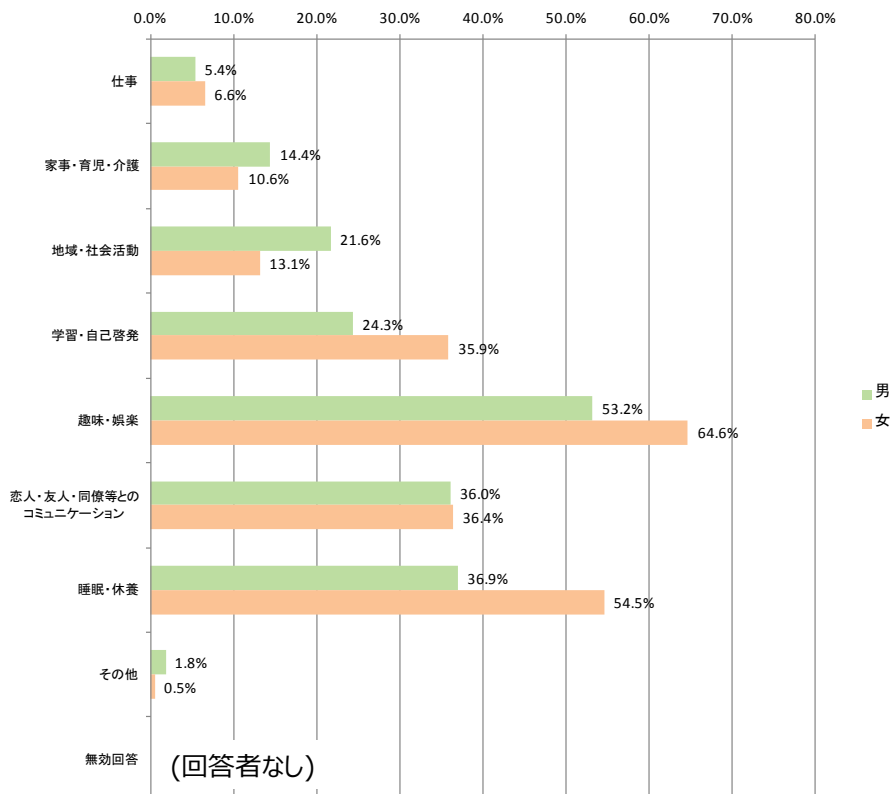
問 22 問 21 で「4 どちらかといえばそう思わない」「5 そう思わない」と答えた方にお聞きします。あなたが「時間を取りすぎていると思う活動」、「時間が取れていないと思う活動」は、どれですか、回答欄にそれぞれ3つまで番号で記入してください。

①時間を取りすぎていると思う活動は、男性は「仕事」、女性は「家事・育児・介護」が最も多くなっている。



(2) 「時間が取れていないと思う活動」

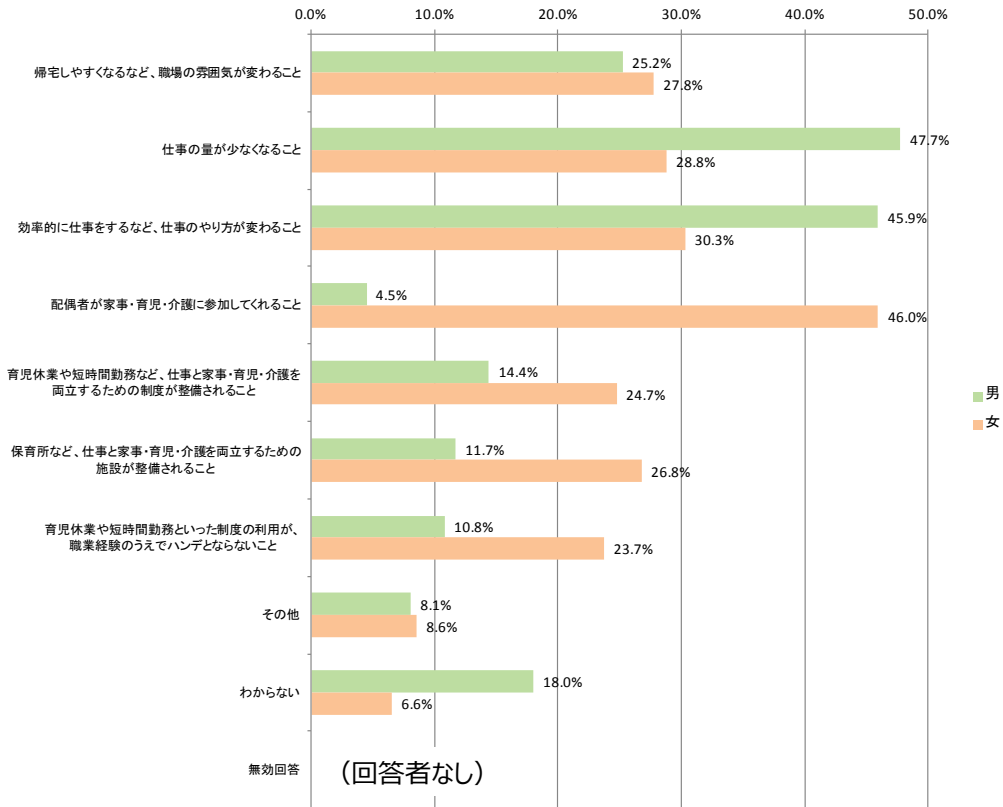
②時間が取れていないと思う活動は、男女とも「趣味・娯楽」が最も多く、次いで「睡眠・休養」が多くなっている。



3) 自分が希望する時間の取り方ができるようになるために必要なこと

問 23 どのようにすれば、自分が希望する時間の取り方ができると思いますか。
 あてはまる番号に○をつけてください。 【○はいくつでも】

男性は「仕事の量」と「仕事のやり方」、女性は「配偶者が家事・育児・介護に参加してくれること」が多くなっている。

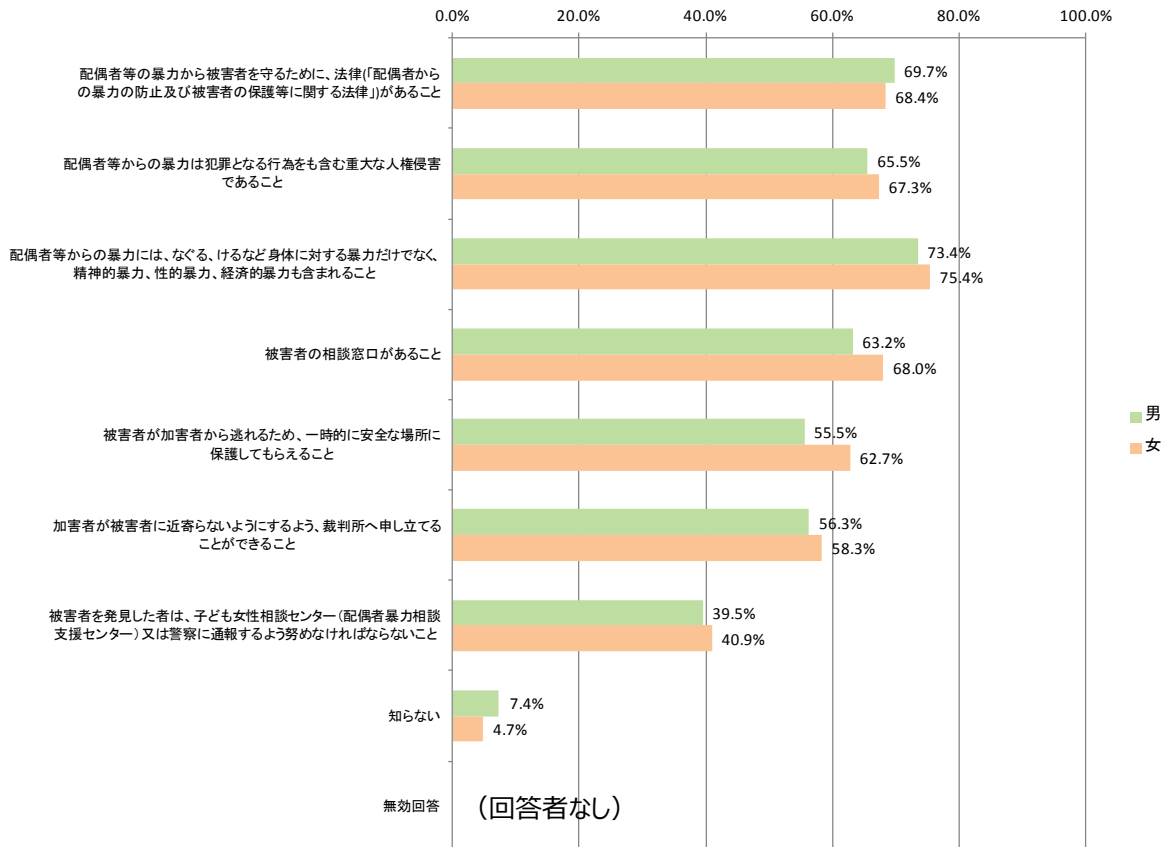


3.6 男女間における暴力について

1) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等について

問 24 あなたは、配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護等に関して、次のことを知っていますか。ここでの「配偶者等」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者、生活の本拠を共にしている交際相手も含みます。(以下、同様。)
 次の中から知っているものをいくつでも選んで番号に○をつけてください。
 【○はいくつでも】

法律や相談窓口の認知度は 7 割程度となっている。



2) 配偶者等からの暴力の被害経験

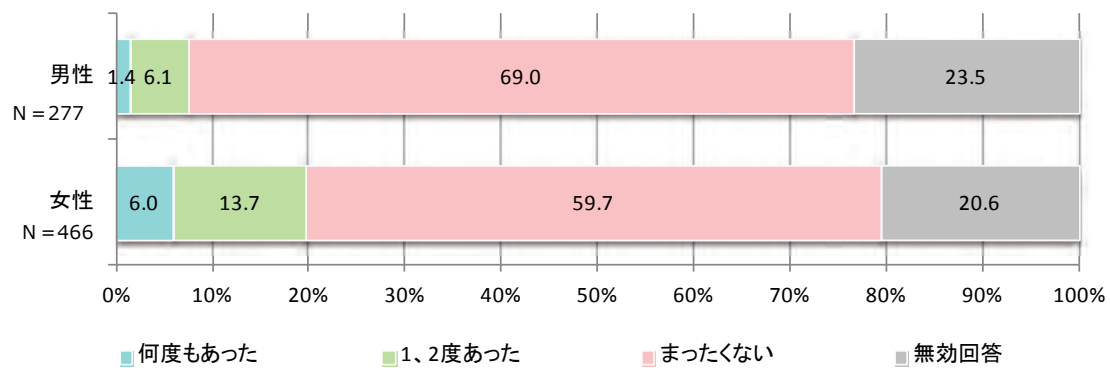
※問 25～問 28 は上記の配偶者等がいる方またはこれまでにいたことのある方のみお答えください。その他の方は問 29 へ進んでください。

問 25 あなたはこれまでに、あなたの配偶者等から次のようなことをされたことがありますか。各項目についてあてはまる番号（1～3）1つに○をつけてください。

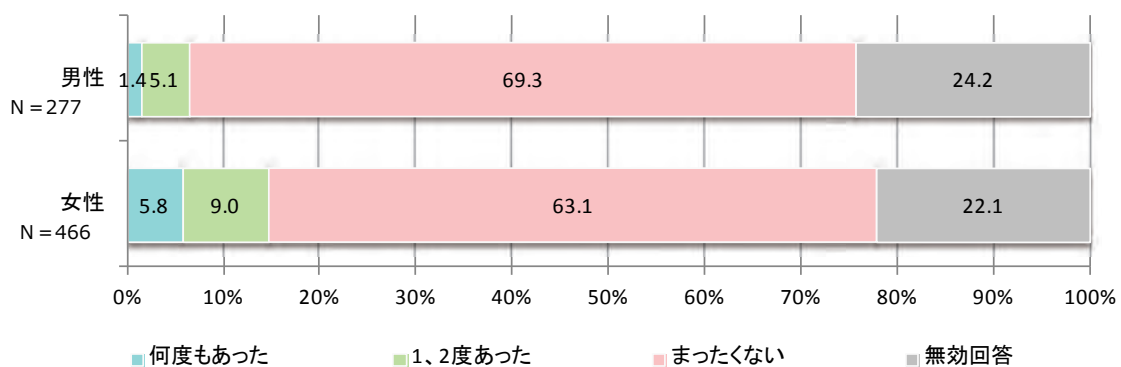
【○はいくつでも】

配偶者からの暴力はいずれの暴力でも男性より女性の被害経験が多くなっている。

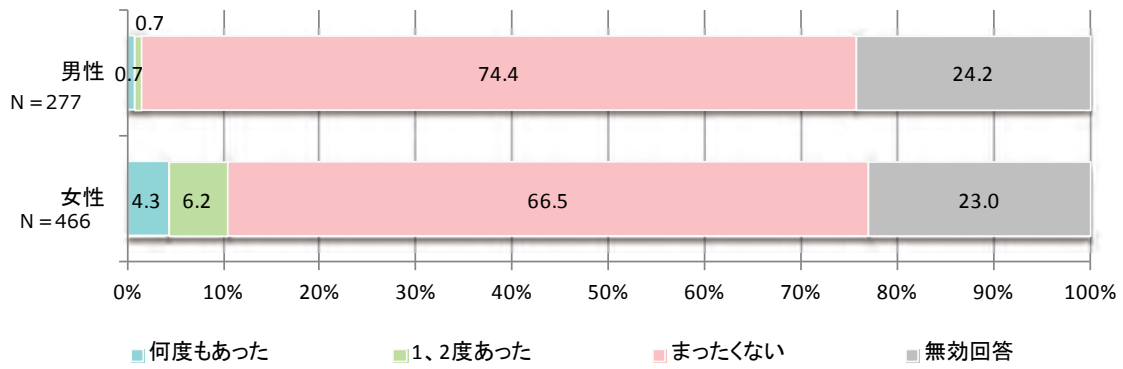
①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた



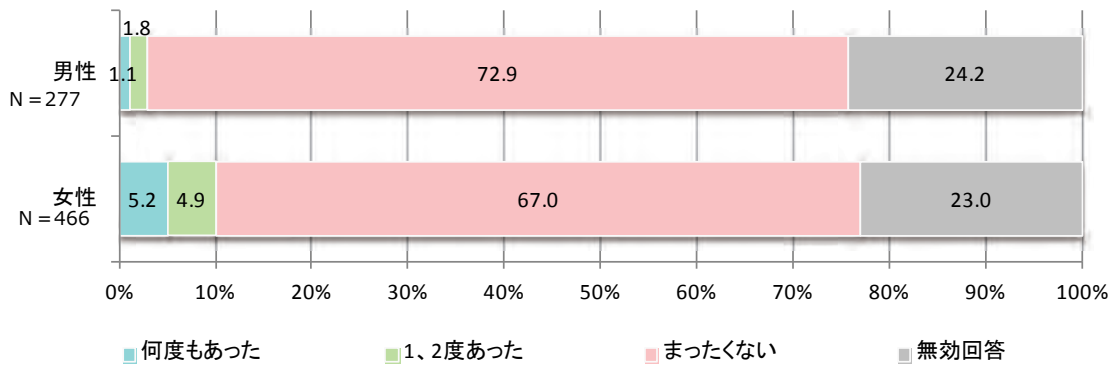
②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた



③いやがっているのに性的な行為を強要された



④必要な生活費を渡されなかった



3) 過去5年以内の被害経験

※問 25 で①から④のうち1つでも、「1、2度あった」「何度もあった」と答えた方にお聞きします。

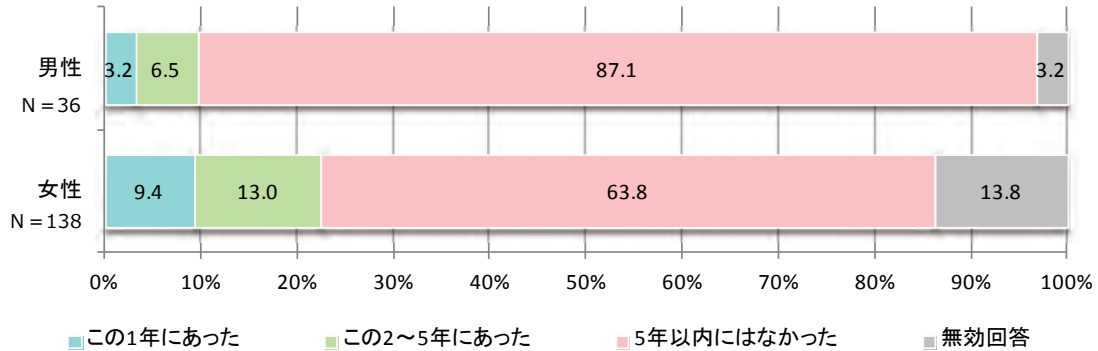
問 26 では、この1年とこの2～5年には、どうでしたか。

各項目についてあてはまる番号（1～3）1つに○をつけてください。

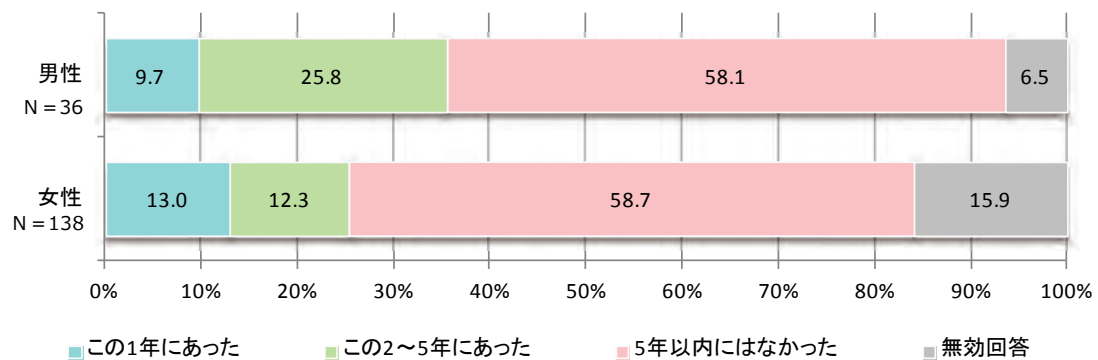
【○はそれぞれ1つずつ】

過去5年以内に、男性は「精神的暴力の被害」を受けたと回答した割合が高くなっている。

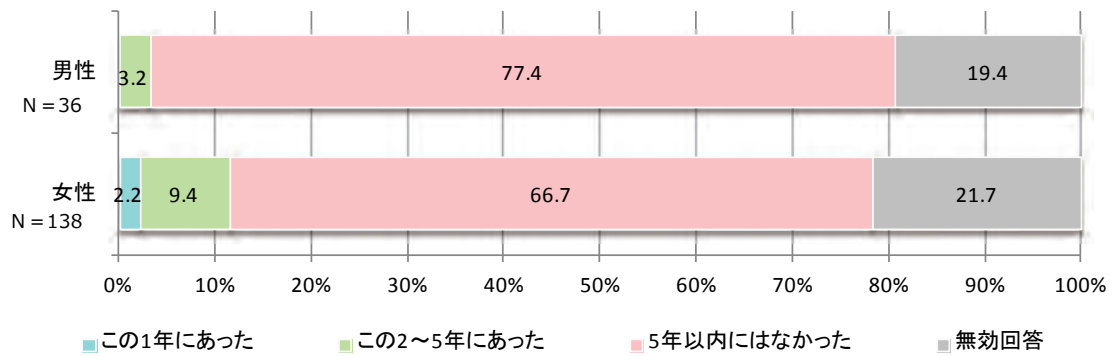
①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた



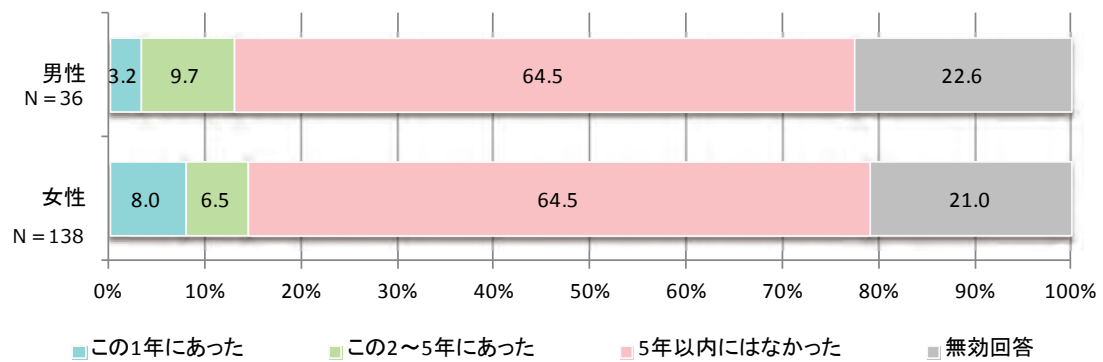
②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた



③いやがっているのに性的な行為を強要された



④必要な生活費を渡されなかった



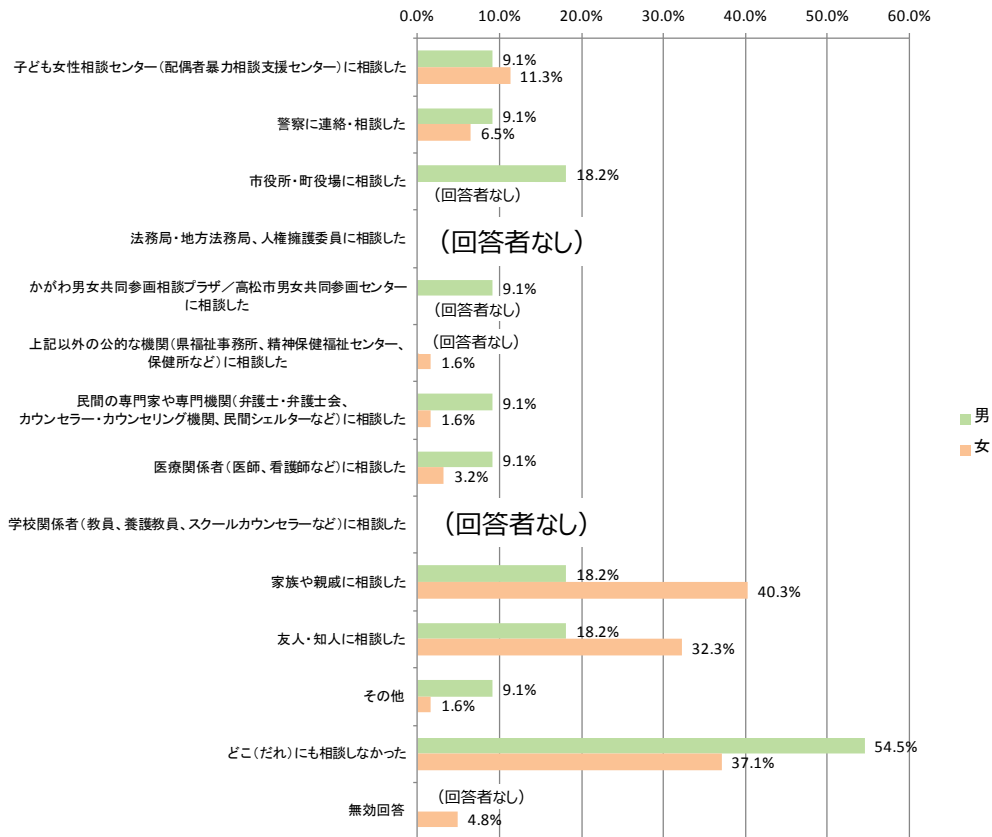
4) 配偶者等からの暴力の相談先

※問 26 で①から④のうち1つでも、「この1年にあった」「この2～5年にあった」と答えた方にお聞きします。

問 27 あなたは、あなたの配偶者等から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号に○をつけてください。

【○はいくつでも】

男性の 54.5%、女性の 37.1%が相談していない。相談先として多いのは「家族や親戚」、「友人・知人」となっている。



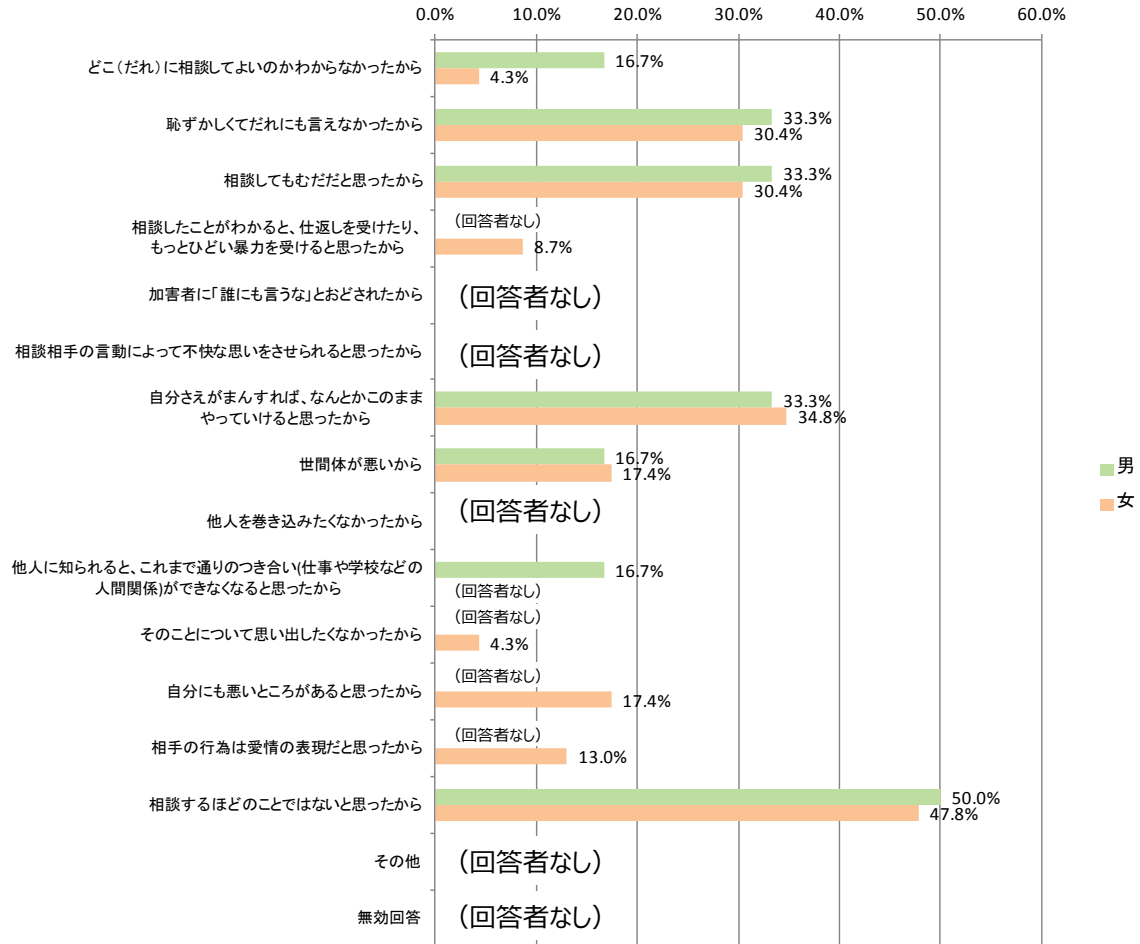
5) 相談しなかった理由

※問 27 で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。

問 28 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。
あてはまる番号に○をつけてください。

【○はいくつでも】

男女とも約半数が、「相談するほどのことではないと思ったから」と回答している。



6) 交際相手からの暴力の被害経験

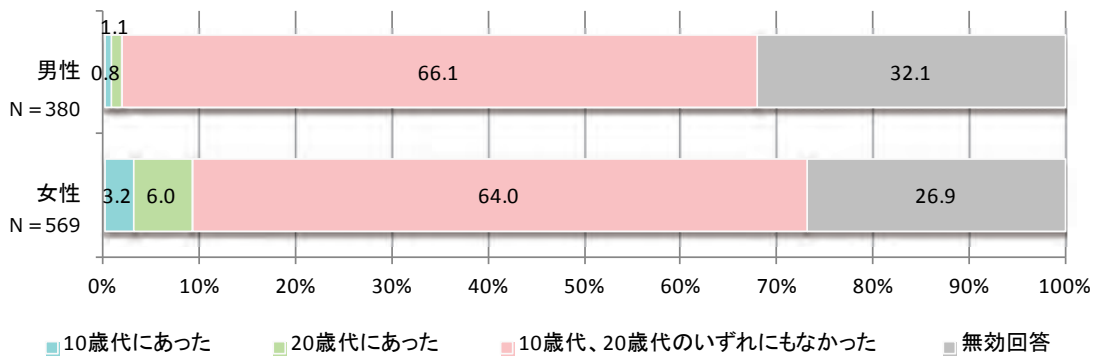
※問 29 は 10 歳代、20 歳代の頃に交際相手（後に配偶者となった相手以外）がいた（いる）方のみお答えください。その他の方は問 30 へ進んでください。

問 29 あなたは、10 歳代、20 歳代の頃に、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。各項目についてあてはまる番号（1～3）に○をつけてください。

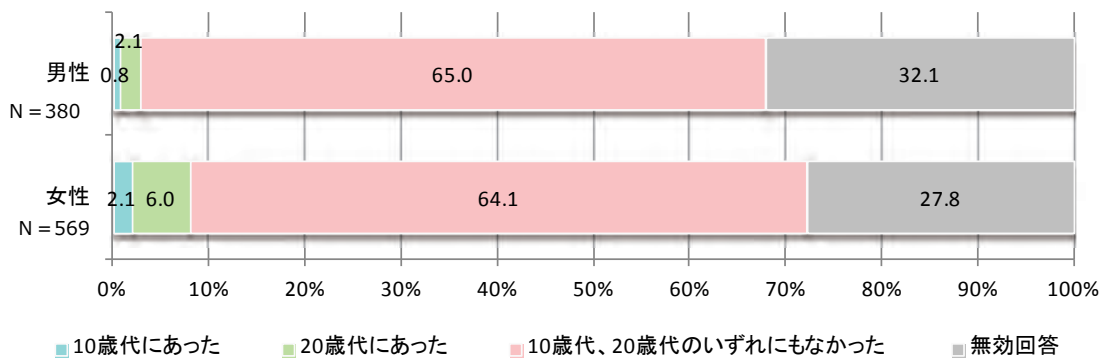
【○はいくつでも】

交際相手からの暴力はいずれの暴力でも男性より女性の被害経験が多くなっている。

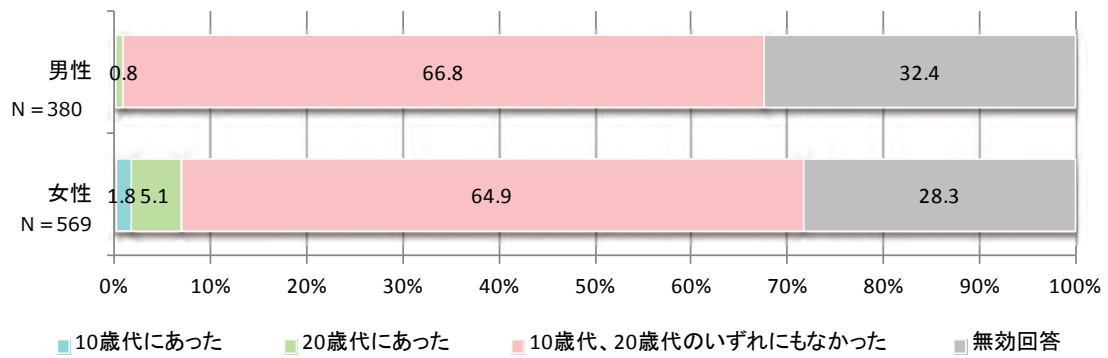
①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた



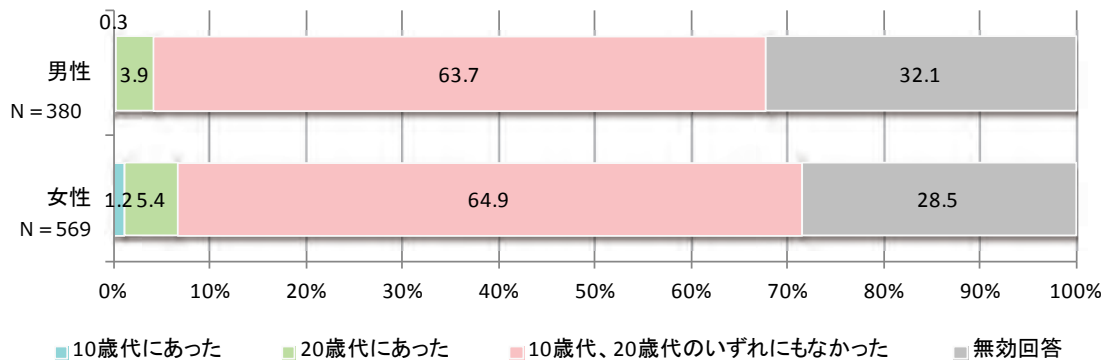
②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた



③いやがっているのに性的な行為を強要された



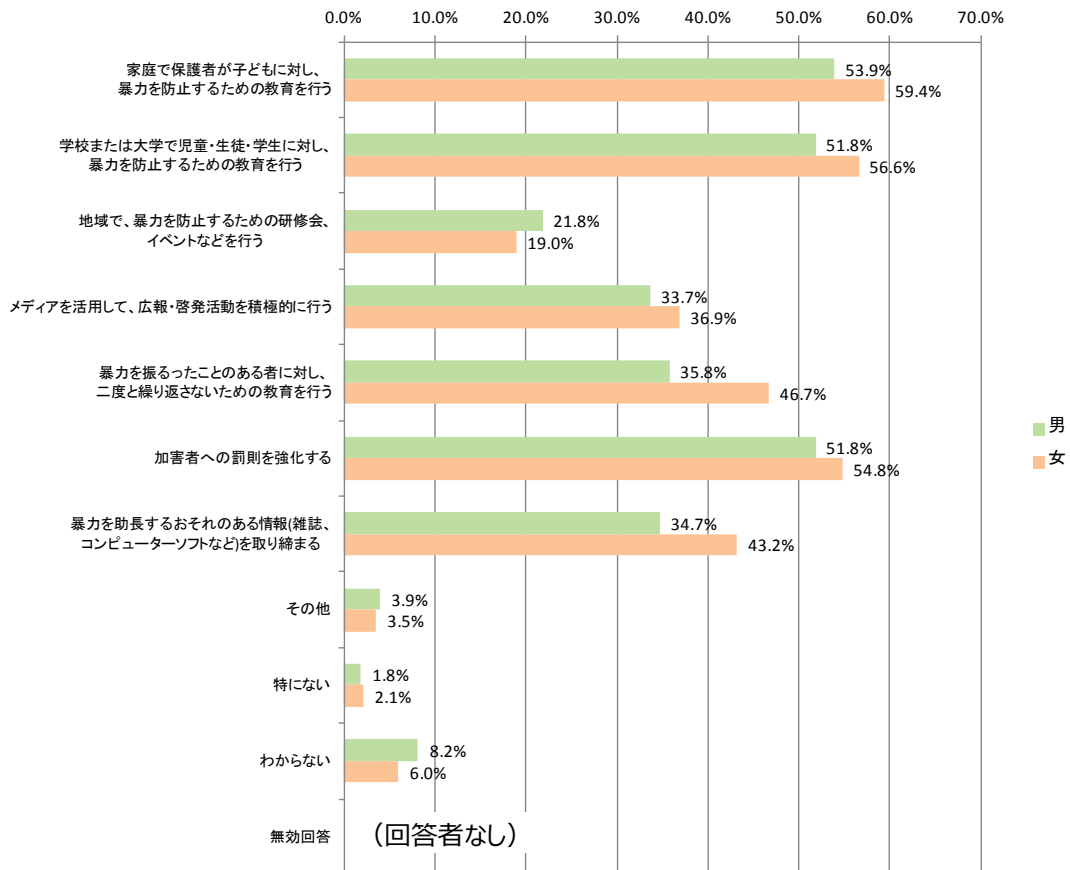
④必要な生活費を渡されなかった



7) 男女間における暴力を防止するために必要なこと

問 30 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。
 あてはまる番号に○をつけてください。 【○はいくつでも】

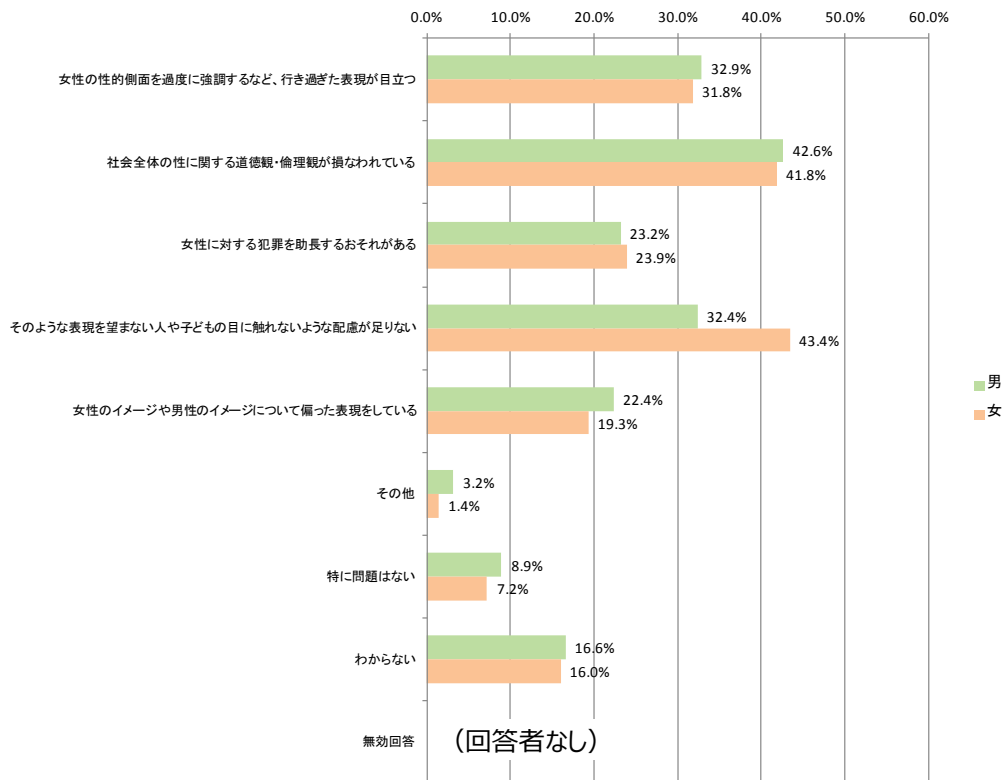
「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」、「学校または大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」ことが必要との回答が多くなっている。



8) メディアにおける性・暴力表現について

問 31 あなたは、メディアにおける性・暴力表現について、どのようにお考えですか。
 あてはまる番号に○をつけてください。 【○はいくつでも】

男女とも「社会全体の性に対する道徳観・倫理観が損なわれている」、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」と回答する人が多く、女性では「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」も多くなっている。



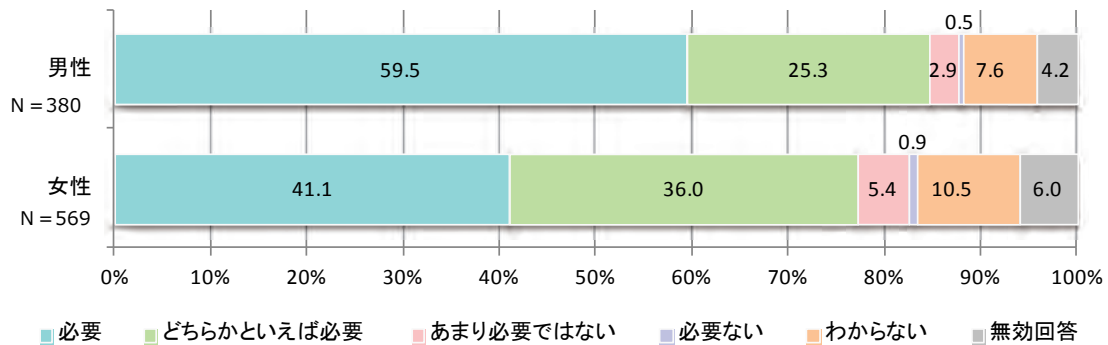
3.7 防災について

1) 防災における男女共同参画の推進について

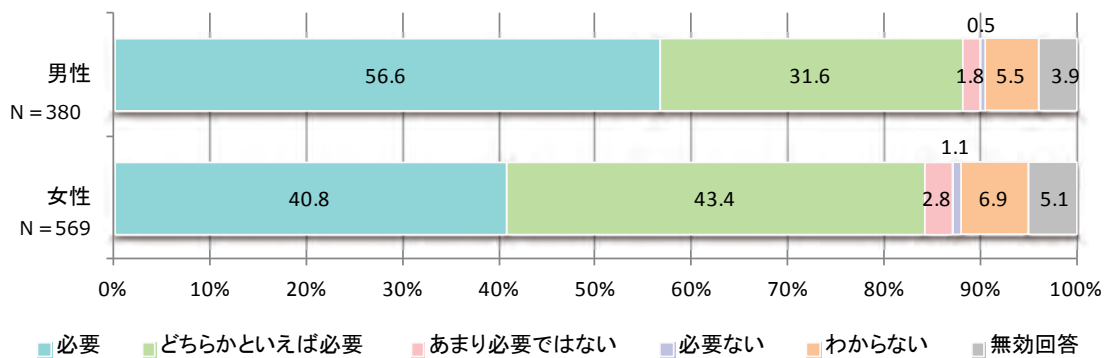
問 32 防災（災害復興を含む）活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。 【〇はそれぞれ1つずつ】

男女ともすべての項目で 60%以上が「必要」または「どちらかといえば必要」と回答している。

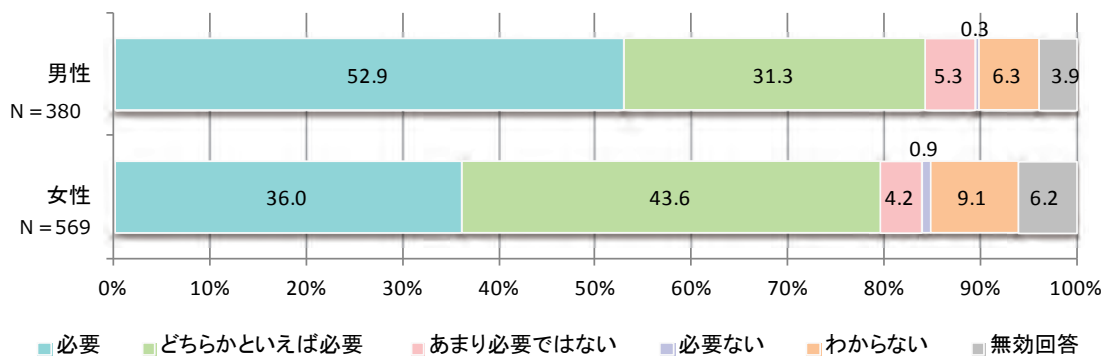
①防災計画策定にあたっての女性委員の参画



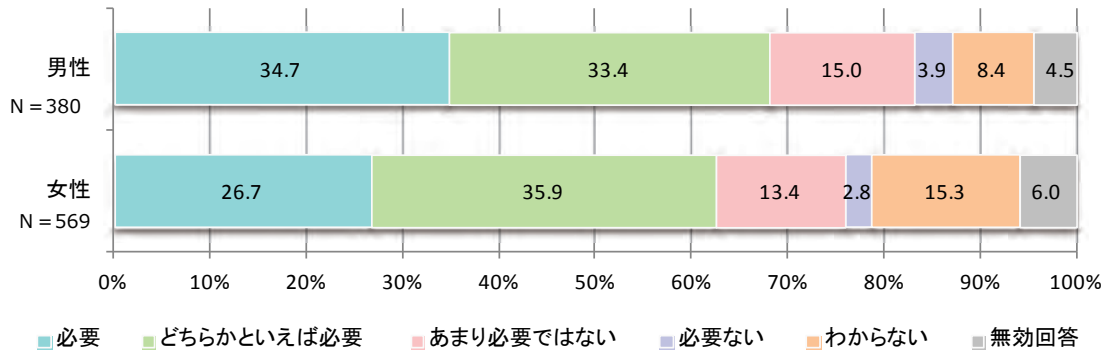
②防災研修や防災訓練への女性の積極的な参加



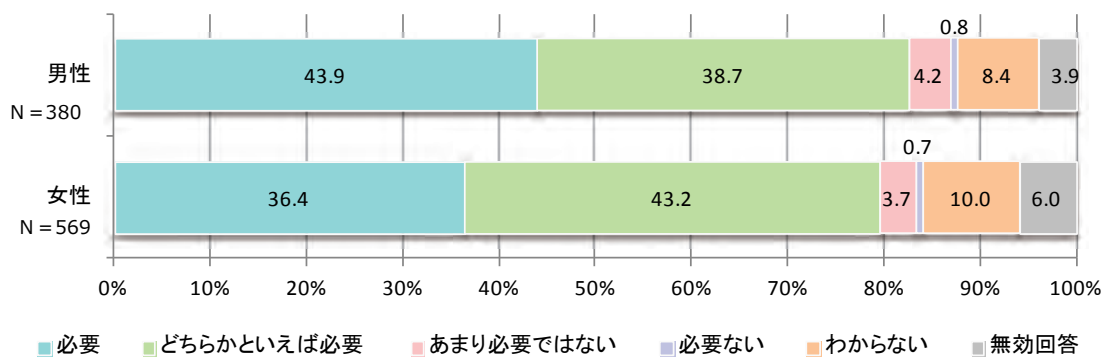
③自主防災組織への女性の積極的な参加



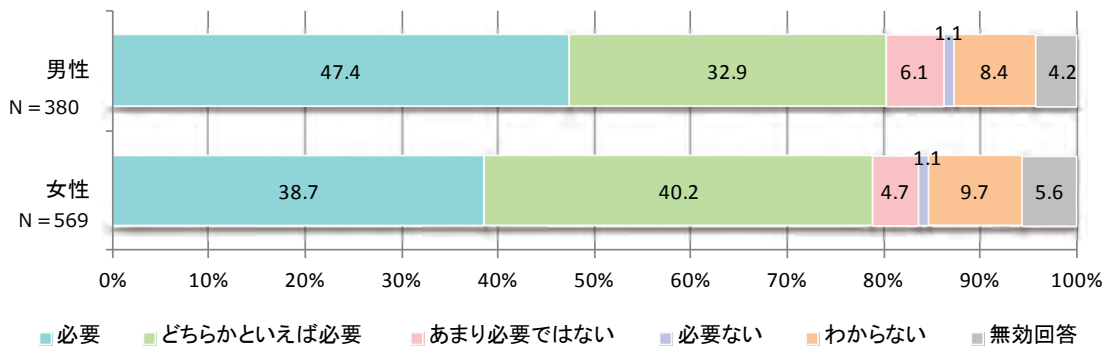
④女性消防職員や女性消防団の育成、役員への女性の登用



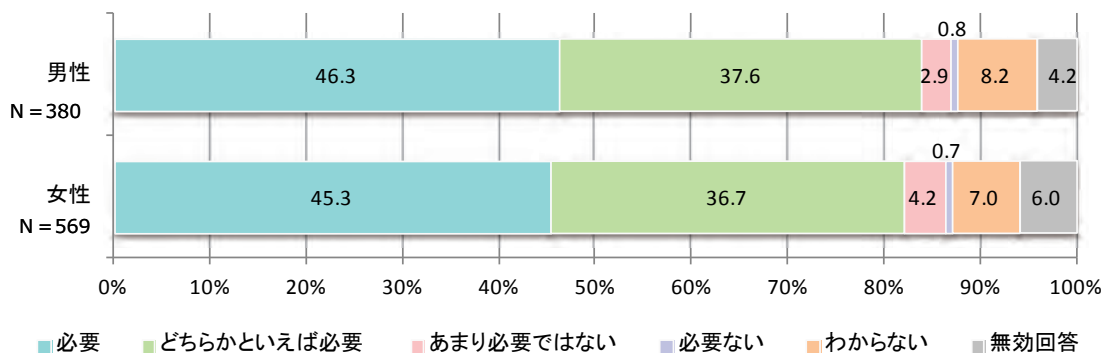
⑤女性の災害時ボランティア登録の推進など多様な人材の確保



⑥避難所運営の際の女性リーダーの配置



⑦母親教室、乳幼児教室、PTA活動等、女性が多く集まる団体への研修・訓練



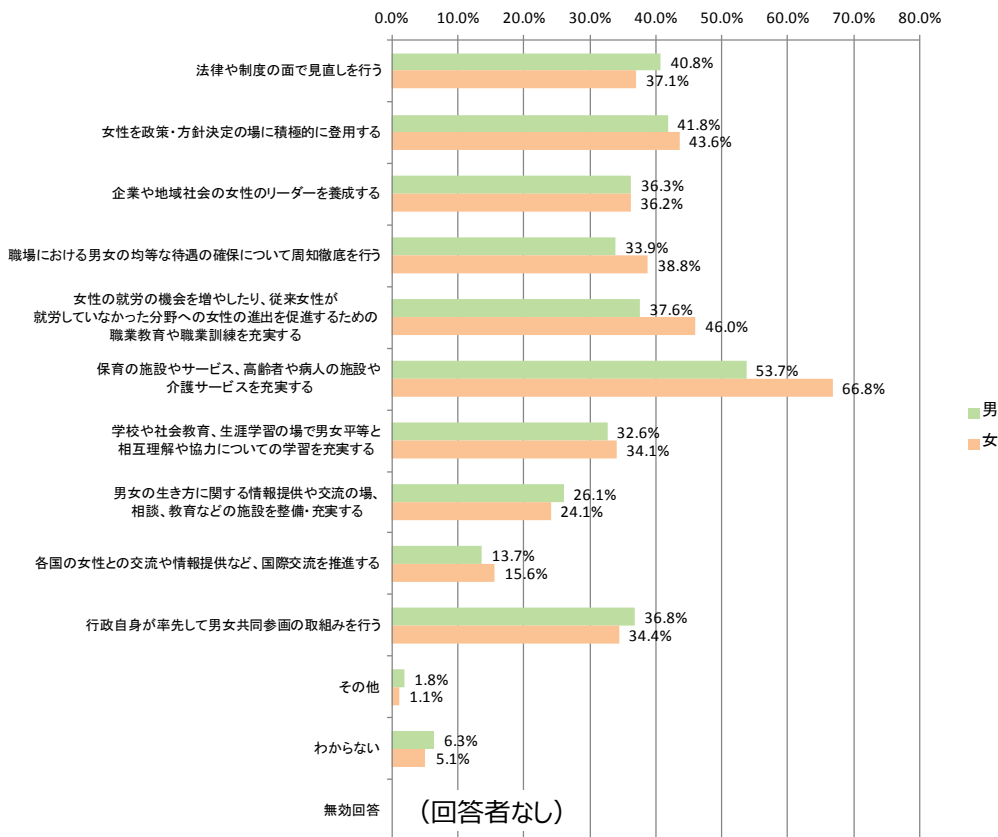
3.8 男女共同参画社会の形成について

1) 男女共同参画社会の形成のために行政が力を入れていくべきこと

問 33 あなたは、男女共同参画社会を形成していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。

【○はいくつでも】

「保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が男女とも最も多くなっている。



平成26年度 香川県男女共同参画社会に関する意識調査 概要版

平成27年3月 発行

香川県総務部県民活動・男女共同参画課

〒760-8570 高松市番町四丁目1番10号

電話 087-832-3197

FAX 087-831-1165

URL <http://www.pref.kagawa.jp/danjo/sankaku/>

